

平成28年度

(2016年度)

社会福祉法人 東蒲原福祉会

事業報告書

東 蒲 の 里

東 蒲 の 里 み か わ 園

とうかん福祉サービス

# 目 次

## I 平成28年度社会福祉法人東蒲原福社会 法人事務局 事業報告

	頁
1. 入職・離職状況	1
2. 人員構成・給料関係	1
3. 相談センターなごみ	3
4. 法人委員会開催状況	
4-1. 組織強化チーム	6
4-2. サービス管理向上チーム	8
4-3. スキルアップチーム	9
5. 東蒲原福社会研修報告	11

## 1 入職・離職状況

### 1. 平成 28 年度入職・離職状況（常勤 8 時間職員対象）

名称	法人全体		法人本部		東蒲の里		みかわ園		福祉サービス	
職員数 (4月1日)	110 人		11 人		37 人		40 人		22 人	
	入 職	離 職	入 職	離 職	入 職	離 職	入 職	離 職	入 職	離 職
4 月	8	0	0	0	4	0	4	0	0	0
5 月	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0
6 月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
7 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12 月	0	3	0	1	0	0	0	2	0	0
1 月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
2 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 月	0	4	0	0	0	0	0	1	0	3
合計	10	9	0	1	6	2	4	3	0	3
入職率	9.09%		0.00%		16.21%		10.00%		0.00%	
離職率	8.18%		9.09%		5.40%		7.50%		13.63%	

※ 平成 27 年度の法人全体の入職率 7.01%（8 人）、離職率 12.28%（14 人）

#### 【計算式】

入職率＝増加労働者数÷年初の全労働者数×100

離職率＝減少労働者数÷年初の全労働者数×100

#### 【参 考】

平成 27 度の介護業界全国平均離職率 16.5%

## 2 人員構成・給料関係

### 1. 平成 28 年度事業所別・雇用形態別職員数（平成 29 年 3 月 31 日現在）

雇用形態	法人全体	法人本部	東蒲の里	みかわ園	福祉サービス
職員	107 人	10 人	37 人	38 人	22 人
臨時的採用職員	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
パート職員	32 人	4 人	9 人	15 人	4 人
再雇用職員	3 人	0 人	1 人	0 人	2 人
登録ヘルパー	19 人	0 人	0 人	0 人	19 人
合計	161 人	14 人	47 人	53 人	47 人

## 2. 平均基本給

### (1) 管理職、役付職員平均基本給

役職	人数	平均給料額
事務局長・施設長	4人	328,400円
課長	4人	269,800円
係長	18人	237,478円
リーダー	16人	180,081円
合計	42人	

### (2) 雇用形態別平均基本給

雇用形態	人数	平均給料額
職員（一般職）	68人	171,599円
臨時的採用職員 （月給日給制）	0人	
合計	68人	

### 3. 相談センターなごみ

#### 1. 相談実績（期間：平成28年4月から平成29年3月）

##### (1) 相談件数および相談方法

月	件数	月	件数
4月	0件	10月	1件
5月	1件	11月	1件
6月	2件	12月	0件
7月	0件	1月	0件
8月	4件	2月	0件
9月	0件	3月	0件
		<b>合計</b>	<b>9件</b>

##### 相談方法

方法	件数
電話	7件
来訪	2件
地域活動時	0件
その他	0件
<b>合計</b>	<b>9件</b>

##### 相談者

相談者	件数
本人	0件
家族	7件
民生委員	1件
その他	1件
<b>合計</b>	<b>9件</b>

##### (2) 相談内容

相談内容	件数
・介護サービス利用・介護認定について	3件
・介護給付サービスについて	2件
・介護保険外サービスについて	0件
・近隣住民の対応について	2件
・その他	2件
<b>合計</b>	<b>9件</b>

2. 地域との交流活動参加実績

実施日	サロン開催地区名	参加者
5月20日	三川地区 岩谷	地区の方 13名
7月14日	三川地区 長谷	地区の方 17名
7月15日	三川地区 五十島	地区の方 12名
8月24日	三川地区 行地	地区の方 6名
10月12日	三川地区 熊渡	地区の方 11名
10月13日	三川地区 下綱木	地区の方 14名
10月14日	三川地区 上綱木	地区の方 9名
10月23日	三川地区 中ノ沢	地区の方 13名
3月24日	津川地区 野村	地区の方 12名

実施日	地区訪問開催	参加者
5月26日	鹿瀬地区 麦生野	地区の方 13名
	鹿瀬地区 当麻	地区の方 2名
6月23日	鹿瀬地区 当麻	地区の方 9名
7月6日	津川地区 西	地区の方 13名
11月15日	上川地区 黒谷	地区の方 9名

実施日	介護サービス勉強会	参加者
11月25日	阿賀町文化福祉会館	阿賀町の方 13名

### 3. 事業報告（総括）

相談センター「なごみ」の周知に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 阿賀町のサロンに参加し事業の紹介を行います。</li> <li>② 事業内容紹介のチラシ、「ここにこカード」を配布し事業の周知を図ります。</li> <li>③ サロン活動への参加だけでなく、地区への訪問、勉強会の開催により地域の方に相談センター「なごみ」を知ってもらいます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 三川地区・津川地区で行われているサロンへ参加し、事業内容の紹介、チラシ・「ここにこカード」の配布を行った。</li> <li>② サロンには、決まった職員だけでなく、その時の内容によって、様々な職員が参加し、地区の方々との関わりを持つことができた。</li> <li>③ 地域貢献活動委員会と一緒に、サロンを実施していない地区に訪問し、地域の方との交流を持つことができた。また、これまでサロンへ参加されている年齢層の方々が介護で悩みを持っているのではないかと考えていたが、実際はもう少し若い年齢層の方々も介護に関しての悩みや不安を持っていることがわかった。</li> <li>④ 介護サービスの勉強会を開催し、介護サービスを利用するまでの流れを覚えてもらった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンへの参加、地区訪問等で、地域の方との交流を継続し、相談センターなごみを知ってもらい、気軽に相談してもらえるようにしていく。</li> <li>・サロン活動・地区訪問には、特定の職員だけでなく、様々な職員が参加できるよう、メニューの検討、マニュアルの作成を行っていく。</li> <li>・地区訪問・勉強会の内容等を検討し、地域の方々の知りたい情報を伝えられるようにしていく。</li> </ul>

## 4-1 組織強化チーム

### 1. 委員会開催状況

開催日	協議事項等
5月19日	○平成27年度検討内容の確認 ○平成28年度事業計画について
6月16日	○平成27年度検討内容の報告 ○平成28年度事業計画について
7月1日	○人事考課制度における「目標管理」について
8月4日	○人事考課制度における「目標管理」制度の検討
8月18日	○人事考課制度における「目標管理」制度の検討
8月31日	○人事考課制度における「目標管理」制度の検討
9月15日	○人事考課制度における「目標管理」制度の検討
10月7日	○人事考課制度における職種別「自己評価表」の検討
10月21日	○人事考課制度における職種別「自己評価表」の作成作業
11月17日	○人事考課制度における職種別「自己評価表」の作成作業
12月15日	○人事考課制度における職種別「自己評価表」の作成作業
2月16日	○平成29年度の事業計画と今後の作業内容のスケジュールについて



## 2. 結果及び課題

### (1) 人事考課制度について

- ・平成28年度も前年度に引き続き、人事考課制度の見直しと制度改正に向けて検討を行ってきた。
- ・今年度は、個々の職員の目標設定と目標を基にした評価方法を検討するとともに、職種毎の自己評価についても検討と作成を実施した。

次年度も今年度と同様に人事考課制度の改正に向けて検討を継続するとともに、新たな制度について職員に分かりやすく説明し、スムーズに新制度へ移行できるよう周知する。

## 4-2 サービス管理向上チーム

### 1. 委員会開催状況

開催日	協議事項等
4月21日 (全体会)	○平成27年度活動報告および平成28年度事業取り組み検討 ・平成27年度事業報告 ・平成28年度事業計画
6月24日 (ワーキング)	○各施設におけるQCサークル活動進捗報告(1回目) ・各施設でのQCサークル活動の進捗状況について
9月2日 (ワーキング)	○各施設におけるQCサークル活動進捗報告(2回目) ・各施設でのQCサークル活動の進捗状況について
10月28日 (ワーキング)	○各施設におけるQCサークル活動進捗報告(3回目) ・各施設でのQCサークル活動の進捗状況について
1月27日 (ワーキング)	各施設におけるQCサークル活動進捗報告(4回目) ・各施設でのQCサークル活動の進捗状況について ○平成29年度事業取り組み検討 ・平成29年度事業計画
3月6日 (ワーキング)	○各施設におけるQCサークル活動進捗報告(5回目) ・各施設でのQCサークル活動の進捗状況について

### 2. 結果及び課題

#### (1) 各施設におけるQC活動について

各施設において、様々な業務の改善に向けて取り組んだ。取り組んだ内容として、「誤薬事故の再発防止」、「QCサークル活動を通じた事故報告書の検討」、「訪問を忘れないようにするには」を行った。

その結果、各施設において、マニュアルや様式の見直しを行い再発防止に繋げることができた。

#### (2) 今後の取り組みについて

- ・各事業所において、PDCAサイクルに沿った形でQCサークル活動を行い、取り組んだ内容の報告を行う。

### 4-3 スキルアップチーム

#### 1. 委員会開催状況

開催日	協議事項等
4月20日	○平成28年度の各種研修について ・同業種研修 ・異業種研修 ・5年目振返研修 ○指導力向上のための法人研修の実施について検討
5月18日	○指導力向上のための法人研修の実施について検討 ○各種研修の進捗状況について
7月20日	○指導力向上のための法人研修の実施について検討 ○新任職員研修の内容について見直し ○各種研修の進捗状況について
7月24日	○指導力向上のための法人研修の実施について検討 ○新任職員研修の内容について見直し ○各種研修の進捗状況について
9月21日	○指導力向上のための法人研修の実施について検討 ○新任職員研修の内容について見直し ○各種研修の進捗状況について
10月26日	○各種研修の進捗状況について ・異業種研修について実施報告 ○新任職員研修の内容について見直し ○各種研修の進捗状況について
11月25日	○各種研修の進捗状況について ・同業種研修について実施報告 ○新任職員研修の内容について見直し ○各種研修の進捗状況について
12月28日	○各種研修の進捗状況について ○新任職員研修の内容について見直し ○各種研修の進捗状況について
1月18日	○各種研修の進捗状況について ○新任職員研修の内容について見直し ○各種研修の進捗状況について
2月15日	○各種研修の進捗状況について ○新任職員研修の内容について見直し ○各種研修の進捗状況について

## 2. 結果及び課題

### (1) 法人研修体系

平成 28 年度についても、平成 27 年度に引き続き東蒲原福祉会研修体系図をもとに、職員の目指す目標に応じた研修や入社年数に応じた研修を実施した。

### (2) 同業種研修

同業種研修については、社会福祉法人つばめ福祉会、社会福祉法人新潟南福祉会、社会福祉法人二王子会に協力して頂き、4 名の職員が研修を実施した。参加職員が希望する事業所において研修を受け、他事業所の業務内容や業務の進め方・記録の仕方などを学ぶことができた。

### (3) 異業種研修

異業種研修については、「月岡温泉ホテル泉慶」に協力していただき、6 名の職員が 3 日間の研修を実施した。接遇やマナーのほか、効率を重視した業務への取組み方を学ぶことができた。

### (4) 指導力向上のための研修についての検討

職員全体の指導力を高めることを目的に研修実施に向け検討を行った。1 回のみで開催ではなく継続的な研修が必要であるため、平成 29 年度より法人内研修の専門研修のテーマを「指導力向上」に固定し、継続的に研修を実施することとした。

### (5) 新任研修の見直しについての検討

現在の新任研修の研修体系について期間及び内容の見直しを行った。平成 29 年度についても引き続き検討を行い、平成 30 年度の障害福祉事業の開始に合わせ、新体系での研修が実施できるよう取り組んでいく。

### (6) 個別研修計画

平成 27 年度に引き続き、個別研修計画に基づいた研修を実施した。職員が検討しやすいよう外部研修について情報発信を積極的に行って行く。

## 5 東蒲原福社会研修報告

### 1. 研修別内容

研修名	開催日	内容・講師	対象職員	参加者数
新任研修	4月1日 ～8日 5月9日 ～20日 5月2日 ～20日 5月27日 7月4日 ～5日 9月1日 2日・5日 12月20日 3月24日	東蒲原福社会新任職員研修 講師：東蒲原福社会 職員	新任職員	17名
現任研修	7月5日	「モチベーションについて」 講師：オークス株式会社 代表取締役社長 佐藤俊之氏	入社2年目 から4年目の 職員	10名
職員研修 指導監督的	8月9日 ～10日	「指導力向上のための研修」 講師：東蒲原福社会 清野施設長 加藤施設長	入社5年目の 職員 新たに 係長 専門指導職 リーダー になった職員	8名
職員研修	9月23日	「介護サービス事業関係者 ゲートキーパー養成研修」 講師：臨床心理士 榎谷晶子氏	全職員のうち 参加可能職員	23名

専門研修	10月13日	「OJTのための コミュニケーション研修」 講師：キャリアドバンス 代表 岡田美栄氏	入社6年以上 の一般職 専門指導職 総合職	12名
監督職及び 管理職研修	11月22日	「人材育成のためのコーチング研修」 講師：キャリアドバンス 代表 岡田美栄氏	事務局長 施設長 課長 係長	19名
役員研修	3月9日	「役員が持つべき視点とは」 講師：(有)ピー・エム スリー 高橋英明氏	理事 監事 評議員 事務局長 施設長 課長	18名

## 2. 結果及び課題

東蒲原福祉会研修体系に基づき、平成28年度事業計画に掲げた研修を実施した。

- ・ 現任研修では、外部講師を招き、「モチベーション」をテーマに実施した。講師が代表取締役社長を務めるオークス株式会社で実践している取組みを学ぶことができた。
- ・ 指導監督的職員研修は、入社5年目の職員及び新たに係長、専門指導職、リーダーとなった職員を対象に「指導力向上」をテーマに実施した。
- ・ 職員研修では、新潟県及び阿賀町の担当者に協力いただき、臨床心理士を講師に招きゲートキーパー養成研修を実施した。全職員の受講ができなかったため、来年度以降も継続して実施していく。
- ・ 専門研修では、外部講師を招き、「コミュニケーション」をテーマに実施した。グループワーク中心の研修により、傾聴力や質問力を身につけることができた。
- ・ 管理職及び監督職研修では、外部講師を招き「人材育成のためのコーチング」をテーマに実施した。コーチングの重要性を再確認するとともに、ペアワークによる面接演習を行った。
- ・ 役員研修は、中小企業診断士の講師を招いて実施した。「戦略発想」というテーマを古典落語等を用いて学ぶことができた。

平成28年度は、前年度に引き続き講義だけでなく、演習やグループワークを織り交ぜた研修を多く実施することができた。業務の都合により研修に参加できない職員がいる等の課題もあったため、平成29年度については開催時間についても検討し、計画していく。

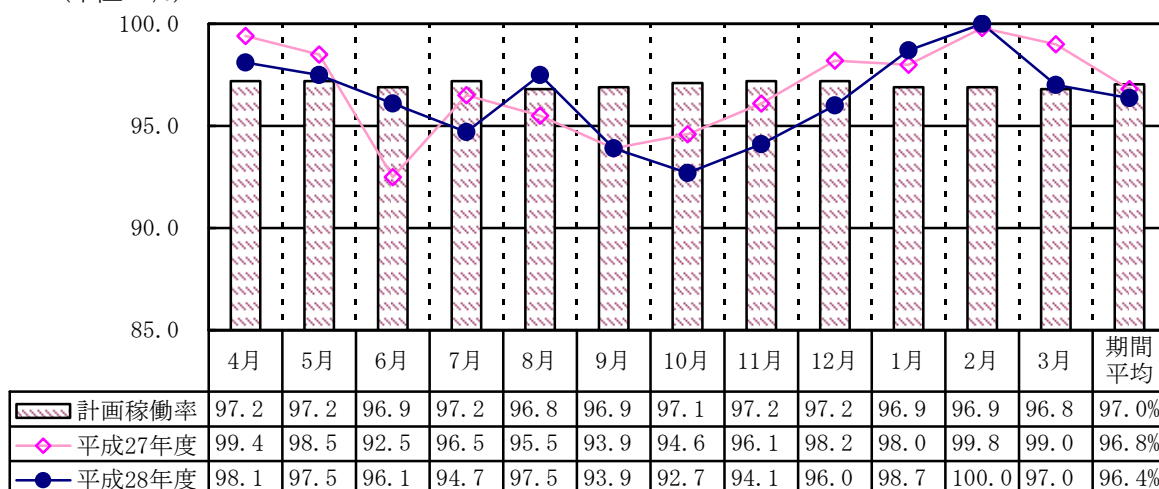
Ⅱ 平成28年度社会福祉法人東蒲原福社会  
東蒲の里 事業報告

	頁
1. 介護老人福祉施設（特 養）	13
2. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	17
3. 通所介護事業（デイサービス）	21
4. 東蒲の里研修報告	26
5. 東蒲の里ボランティア活動状況	28
6. 東蒲の里災害対策	29
7. 東蒲の里苦情受付・対応報告	30
8. 東蒲の里事故等発生状況報告	33

# 1 介護老人福祉施設

## 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

・介護老人福祉施設の1日定員(50人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,585日であったことから

$$\frac{17,585 \text{ 日}}{18,250 \text{ 日} \langle 50 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle} = 0.9636 \quad \text{稼働率 } 96.4 \%$$

(延べ利用日数)                      (定員)      (実稼働日数)

## 2. 要介護度別入所者数(平成29年3月31日現在)

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
平成27年度	2	3	14	17	14	3.76
平成28年度	2	1	10	23	14	3.92

## 3. 要介護度状態の変化(平成29年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	3人
維持	40人
悪化	7人
合計	50人



#### 4. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月13日	観桜会	・ベランダにて、施設玄関前の桜を観賞し、桜と一緒に写真撮影を行った。また、桜を見ながら和菓子を食べていただいた。
7月7日	七夕会	・短冊に願いを書いて笹に飾り、七夕飾りと一緒に写真撮影を行った。
7月17日	納涼祭	・昼食バイキングや屋台での軽食サービス、また地域ボランティアの協力による出店や津川民謡保存会の歌と踊りを楽しんでいただいた。
8月13日	お盆供養	・施設の仏間に十三仏の掛け軸を掛け、龍造寺住職よりお経を上げていただき、お盆供養を行った。
9月6日	敬老会	・式典と祝宴を行い、余興には『彩謡会』の歌と踊りで楽しんでいただいた。
12月20日	忘年会 クリスマス会	・昼食に寿司会食を行い、余興には、『あすなろ一座』の歌と踊りで楽しんでいただいた。 ・職員がサンタクロースに仮装し、利用者にプレゼントを配った後、ケーキを食べていただいた。
1月1日～ 2日	お正月 お楽しみ会	・お楽しみ会として、お汁粉、和菓子を用意し、ご利用者に正月の雰囲気味わっていただいた。 ・ご利用者と職員が一緒に書き初めを行い楽しんでいただいた。
2月3日	節 分	・鬼に扮した職員が各居室や食堂を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。
3月6日	ひな祭り	・雛壇を設置し、雛飾りの観賞と記念撮影を行ったあと、食堂において和菓子を食べていただいた。
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の要望により、外食や買い物などの外出を随時行った。</li> <li>・阿賀町「狐の嫁入り」の花嫁花婿の訪問、地域のボランティアや小学生のボランティア訪問を通して地域との交流を図った。</li> <li>・阿賀町「狐の嫁入り」イベント会場への外出や津川地区等への外出を行い地域交流を図った。</li> <li>・8月14日に地域の花火大会が催され、施設正面玄関前に出て花火見物を行った。</li> </ul>

## 5. 事業報告(総括)

阿賀町のセーフティネットとしての役割と共にご利用者が地域と繋がりのある生活ができる施設を目指します。	
取組事項	<p>①ご利用者が安心して在宅生活を過ごせるよう、継続した在宅入所相互利用に取り組みます。</p> <p>②長期で短期入所生活介護を利用されている方や在宅生活が困難となっている方を把握するため、介護支援専門員や医療機関などからの情報収集に努めます。</p> <p>③地区行事を通じて、ご利用者と地域の皆様との触れ合いや交流の機会を増やします。</p>
実績	<p>①平成28年度は在宅入所相互利用を3名の方がご利用された。その内、1名のご利用者へのケアとして施設利用中も生活意欲が低下しないよう、その方の要望をもとにご家族から協力を得ながら定期的な外出を行った。</p> <p>②介護支援専門員に対して頻繁に連絡を行う中で、新たな在宅入所相互利用制度の利用者を1名増やすことができた。</p> <p>③狐の嫁入り、地区の祭礼への参加や、町内の商店への外出を行った。また、ご利用者からの要望により、知人宅への外出を行うことができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅入所相互利用制度の活用について、利用者数が少ないことから、医療機関、介護支援専門員からの情報収集を引き続き行っていきます。</li> <li>・今年度は小学校や保育園から子供たちが来園してくれたが、ご利用者が小学校や保育園に出向くということがなかった。次年度には、このような取り組みを通じて地域との繋がりを深めて行きたい。</li> </ul>

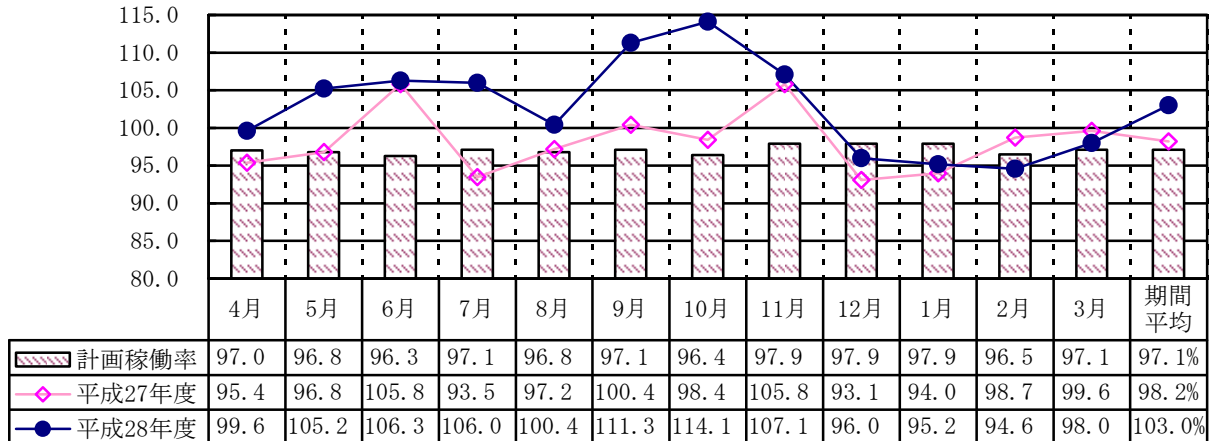
認知症の方が持つ不安や症状の改善を目指し、科学的ケアの理論に基づいた認知症ケアに取り組みます。	
取組事項	<p>①認知症ケアの充実のため、専門性の高い職員を養成するよう各種研修に参加します。</p> <p>②科学的ケアや各種研修を通じて学んだことを実践し、施設内での発表を通じて、職員の知識の向上とケアに対する意識の統一を図ります。</p>
実績	<p>①実践者研修、リーダー研修に1名ずつ参加することができた。</p> <p>②施設内において、介護力向上の施設内研修を行うとともに、特定のご利用者に対して、実践することができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者に認知症の方が増えていることから、次年度も継続して、各種研修の参加や施設内の実践を通じて専門性の高い職員の要請に努めます。</li> </ul>

<p>施設でのケア内容や取り組みについて情報発信することにより、ご家族とのつながりを多くするとともに、地域に開かれた施設を目指します。</p>	
取組事項	<p>①施設の取り組みや実践事例の発表会を開催し、ご家族との交流を図ります。</p> <p>②地域に開かれた施設となるため、職員がサロン活動に参加する機会の増加や、より多くの地域住民と楽しむ施設行事を開催し、地域貢献活動を行います。</p>
実績	<p>①短期、通所の家族意見交換会に特養職員が参加し、特養における、認知症ケア、在宅入所相互利用、リベロ介護(外出)の説明を行なった。</p> <p>②納涼祭において、50名以上の地域住民、ボランティアの方々が来園され地域との繋がりのある行事が開催できた。地区訪問、地区でのサロンに8名の職員を派遣し、施設での取り組みを説明することができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>特養でどのようなケアが行われているか、地域の方に十分お知らせできていないことや分かりやすく説明できる職員が少ないことから、地域での広報活動や説明の際に使用できる「説明支援ツール」を作成します。</li> </ul>

## 2 短期入所生活介護事業

### 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



#### ※稼働率について

- ・短期入所の1日定員(8人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。  
1年間の延べ利用日数が3,007日であったことから

$$\frac{3,007 \text{ 日}}{2,920 \text{ 日} \langle 8 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle} = 1.0297 \quad \text{稼働率 } 103.0 \%$$

(延べ利用日数)                      (定員) (実稼働日数)

#### ※稼働率が100%を超えている理由について

- ・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が100%を超えている状況です。

### 2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成27年度	0	37	4	691	374	571	525	673	2,875日
平成28年度	4	35	0	692	611	724	441	500	3,007日

### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	24	27	27	26	25	27	32	32	32	34	28	34	29人
延べ利用日数	239	261	255	263	249	267	283	257	238	238	212	245	251日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成 27 年度	1.66	5.12 日	3.23	7.74 日
平成 28 年度	1.00	3.53 日	2.85	8.88 日

5. 要介護度状態の変化(平成 29 年 3 月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	5 人
維 持	1 人	23 人
悪 化	0 人	5 人
合 計	1 人	33 人

6. 年間行事報告

園内行事については特養部門と合同で開催した。

## 7. 事業報告(総括)

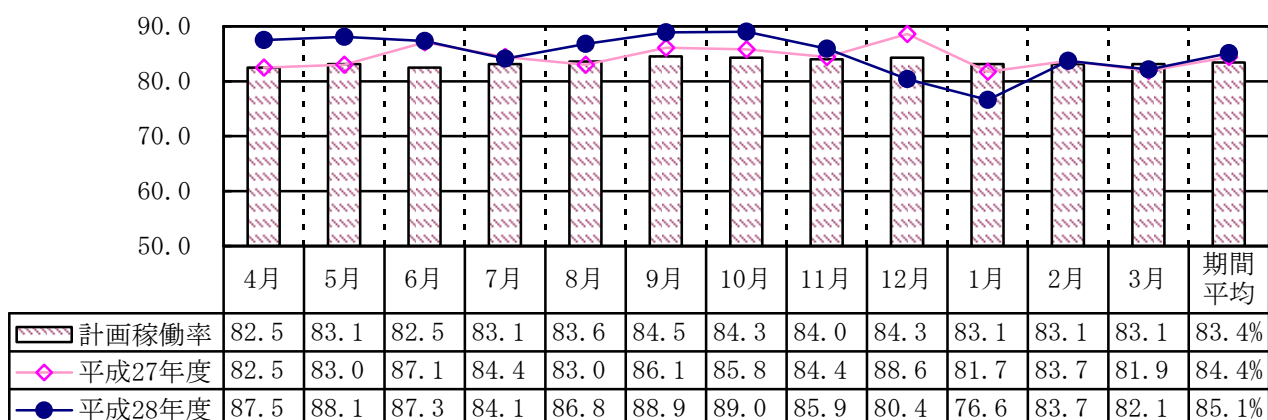
<p>専門職の特色を活かしたケアを充実させ、ご本人やご家族が安心して生活を続けられるよう支援します。</p>	
取組事項	<p>①科学的介護における基礎知識の理解を深め、根拠のある介護を実施します。</p> <p>②医療機関や他の福祉サービスと情報を共有し、把握した課題や医療的ケアに重点を置き、他職種が協働でケアを行います。</p> <p>③法人内の在宅サービスの合同カンファで連携を図り、統一したケアを行います。</p>
実績	<p>①科学的介護の基礎的な理論の理解を深めるため勉強会を開催し、その理論に基づいて水分摂取や運動に関する取り組みを行った。</p> <p>②誤嚥性肺炎により入退院を繰り返している、食事摂取量が減っている、在宅酸素を使用しているなど医療ケアが必要な方が利用する場合には、医療機関はもとより、他の福祉サービスとの情報共有や意見交換を行うことで、統一したケアを行うことができた。</p> <p>③毎月、定期的に法人内の在宅サービスの合同カンファを実施して、ご利用者に対して統一したケアを提供することができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアに重点を置いた取り組みを継続することで、在宅では不足しがちな水分や食事の摂取量、喀痰吸引などのケアを充足し、健康状態の安定と精神症状の軽減を図ります。</li> </ul>

地域住民や利用者家族へ情報発信し、互いに協力し合える関係作りに取り組みます。	
取 組 事 項	<p>①デイサービスやショートステイを利用されているご家族との意見交換会を、定期的を開催します。</p> <p>②地域行事に参加し、ご家族や住民との交流を深め、情報の交換を行います。</p> <p>③地域住民へ情報発信するため、施設を紹介するパンフレットの作成を行い、広報活動に取り組みます。</p>
実 績	<p>①デイサービスと合同で勉強会（認知症や介護に関する勉強会）を開催し、ご家族との意見交換会を行った。また、11月には芋煮会を開催して、ご利用者とご家族が施設でいっしょに楽しむ時間を作ることができた。その際には、東蒲の里でどのような活動をしているか紹介することができた。</p> <p>②狐の嫁入りイベントの参加や施設内の行事で地域住民との交流が図れた。また、津川地区で花火大会が催された時は、正面玄関前で花火見物をする事ができた。</p> <p>③パンフレットを作成し、各居宅支援事業所への配布ができた。また、ご利用者家族に向けて施設での様子や行事の写真を掲載したミニ通信を発行した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご家族との意見交換会を実施し、ご家族が抱えている介護に関する悩みや相談を共有し、互いに協力して解決できる関係作りに取り組む。</li> <li>・ 地域住民との交流の機会を増やす。又、ミニ通信を通じ広報活動に取り組む。</li> </ul>

### 3 通所介護事業

#### 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



#### ※稼働率について

通所介護事業の1日定員(25人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が7,701日であったことから

$$\frac{7,701 \text{ 日 (延べ利用日数)}}{9,050 \text{ 日 (定員) } \times 362 \text{ 日 (実稼働日数)}} = 0.8509 \quad \text{稼働率 } 85.1\%$$

#### 2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成27年度	513	639	706	1,539	1,211	1,053	1,077	919	7,657日
平成28年度	495	727	902	893	1,447	1,172	1,181	884	7,701日

#### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	83	87	88	86	89	86	88	88	80	75	81	83	85人
延べ利用日数	656	683	655	652	673	667	690	644	623	536	586	636	642日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成27年度	1.46	5.73日	2.83	8.30日
平成28年度	1.48	6.19日	2.96	8.21日



5. 要介護度状態の変化(平成 28 年 3 月にご利用されている方を対象としています)

内 容	要支援	要介護
改 善	4 人	4 人
維 持	15 人	36 人
悪 化	2 人	16 人
合 計	21 人	56 人

※基準該当 6 名を除く

6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4 月 15 日 ～22 日	観 桜 会	・デイサービスフロアにて抹茶をたて皆さんで頂きながらお花見を行った。
5 月 25 日	家族意見交換会	・4名参加。試食会を行い各食事形態の説明と意見交換を行った。
6 月 20 日 ～7 月 3 日	バスハイク (阿賀の里)	・阿賀の里に出かけ、買い物や軽食を頂き楽しまれた。
7 月 4 日 ～10 日	七 夕 会	・曜日毎にボランティアより余興を披露していただく。皆さんで短冊に願い事を書いていただいた。
7 月 20 日 ～26 日	軽食づくり	・季節感を感じていただけるようかき氷を皆さんで作って食べられた。
7 月 26 日	家族意見交換会	・4名参加。水分、排泄、食事、運動についての勉強会と意見交換会を行った。
9 月 27 日	家族意見交換会	・7名参加。認知症についての勉強会と意見交換会を行った。
9 月 12 日 ～18 日	敬 老 会	・1週間式典とプレゼント贈呈、曜日毎にボランティアより余興を披露していただく。
11 月 15 日	家族意見交換会	・5名参加。ご家族と一緒に芋煮を作り食べながら交流を図った。
11 月 1 日 ～14 日	秋のバスハイク	・赤崎山や麒麟山公園などに出かけ紅葉を鑑賞し楽しまれた。
12 月 22 日 ～28 日	忘 年 会	・曜日ごとにボランティアや職員の余興を披露する。最終日には皆

		さんと餅つきを行った。
1月30日 ～2月5日	節分	・職員が鬼に扮し豆まきをして楽しんでいただいた。
3月25日 ～31日	軽食づくり	・皆さんでパンケーキをチョコレートなどで装飾しながら作り、楽しまれた。

## 7. 事業報告(総括)

相談会や地域活動を通してご家族や地域の方々に介護に関する情報を発信していきます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① デイサービスやショートステイを利用されているご家族を対象とした意見交換会や勉強会を定期的で開催し、家族から寄せられた介護に関する悩みなどを解決できるよう情報を提供していきます。</li> <li>② サロンや地域活動に参加し地域交流の機会をつくとともに、地域ニーズに合わせた情報を発信していきます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 6月、8月、9月、11月に意見交換会を開催し在宅での介護の不安や質問、ご家族同志の意見交換を行うことができた。</li> <li>② サロン活動1件・地域訪問2件に参加する。 各地域へ出向き予防体操や認知症等についての説明を行った。また、地域の方々と意見交換や会話をすることで交流を図ることができた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見交換会を通して在宅での悩みなどが解決できるよう、より多くの方が参加していただくため、実施する時期や時間について検討を行う。</li> <li>・ 地域の皆様にとって有益と思われる、介護予防や認知症予防に関する知識やノウハウに関する情報を提供する。</li> </ul>

介護現場における職員の専門性の向上を図るとともに、ご利用者一人ひとりとの関わり方を見直します。	
取組事項	<p>①科学的介護の視点から、認知症ケアや自立支援介護の勉強会、ケア方法の検討を行い、統一したケアを実施します。</p> <p>②様々な在宅サービスを利用されている方を対象とした合同ケア会議を開催し、各サービスでの取り組み情報の共有と、互いに連携したケアが行えるよう取り組みます。</p>
実績	<p>①認知症ケアとして導入が進んでいる「ユマニチュード」の手法を取り入れ、デイサービス利用に拒否的だったご利用者に対して実施した。取り組みにより、拒否的だった方が継続して利用していただけるようになった。</p> <p>②合同カンファレンス23件実施する。 合同カンファレンスの実施により情報の共有やケアの統一を図ることができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症ケアとして効果が認められる「ユマニチュード」について外部研修の参加や勉強会を行い職員の理解を深める必要がある。</li> </ul>

在宅生活が継続できるよう、医療、機能訓練、介護それぞれの専門性を活かした支援を行います。	
取組事項	<p>①医療面において、医療機関と連携を図るとともに、利用者個々に必要なアドバイスや指導を行います。</p> <p>②入院中に行った訓練内容を退院後も継続できるよう、医療機関などの理学療法士からの情報収集や指導をもとに、当事業所の理学療法士が中心となって機能訓練の充実を図ります。又、個々のご利用者に合わせて機能訓練と自宅でも訓練が続けられるよう支援を行います。</p> <p>③ご家族が安心・安全に在宅介護ができるよう個々の状態に合わせて技術的な相談支援を行います。</p>
実績	<p>①対応件数36件。 利用中の体調不良者への対応として医療機関や担当介護支援専門員への情報提供や家族に対して受診方法や在宅での健康管理についての指導をおこなった。</p> <p>②対応件数32件。 退院時のカンファレンスへの参加や必要時に医療機関との連携を図ることでスムーズに引き継ぎが行うことができ継続的な機能訓練を実施できた。自宅訪問については家族とのスケジュールが合わず予定通りに実施ができなかった。</p>

	<p>③対応件数8件。          家族からの相談やこちらからのアプローチと意見交換会で挙げられた相談を含め個別毎に相談支援を行った。</p>
<p>課題と今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 医療機関や訪問介護への情報提供、互いに連携したケアを行うことで、スムーズに対応することができ、ご利用者とご家族の安心感に繋がったことから、今後も継続して取り組むこととした。</li> <li>• 機能訓練指導員の自宅訪問ではご家族とのスケジュール調整が難しかったため、訪問方法について再検討が必要である。また、自宅の環境に合わせた指導、アドバイスを継続的に実施できるよう取り組むこととした。</li> <li>• 年間を通して介護についての相談件数が少なかったことから、相談しやすい環境を整えるとともに、的確なアドバイスができるよう介護職員の指導を行う必要がある。</li> </ul>

## 4 東蒲の里研修報告

### 1. 外部研修種別の内訳

項目	内容	主な研修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び対人援助職に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	関東ブロックカンントリーミーティング
		新潟県老人福祉施設研究大会
		県老施協第1ブロック部会 第1回研修会
		県老施協第1ブロック部会 第2回研修会
		喀痰吸引研修
		認知症実践リーダー研修
		認知症実践者研修
		ゲートキーパー養成研修 阿賀町市民後見人養成研修

### 2. 内部研修参加状況

開催日	研修名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
平成28年5月25日	疾患と感染症について 生活習慣予防とは(ストレスチェック)	47	40	85.1
平成28年6月15日 平成28年6月22日	救急法 1時間コース	50	49	98.0
平成28年7月20日	栄養ケアについて 夏季の健康管理について 介護力向上の取り組みについて	50	40	80.0
平成28年9月21日	復命会(2件) メンタルヘルスについて 腰痛予防について	51	44	86.3
平成28年10月19日	感染症予防と吐物処理 緊急時の事故対応・事故分析	51	42	82.4
平成28年11月16日	復命会(2件) 危険予知トレーニング	51	51	100.0
平成28年12月14日	個人情報について プライバシー保護について 高齢者虐待防止について 喀痰吸引について 危険予知トレーニング	51	40	78.4

平成 29 年 1 月 20 日	苦情について 褥瘡ケアについて 腰痛予防について 危険予知トレーニング	51	35	68.6
平成 29 年 2 月 15 日	法令遵守について 看取り介護について 事故事例の検討、検証について 危険予知トレーニング	50	35	70
平成 29 年 3 月 8 日	3 年目研修の発表会 介護力向上委員会成果報告 復命会(1 件) 危険予知トレーニング	50	35	70

### 3. 研修報告(総括)

#### ① 外部研修

- ・認知症実践者、リーダー研修や喀痰吸引研修に参加し、職員の資格取得、技術の習得に努め、内部研修において、その内容を復命した。
- ・施設職員が福祉の専門職として、阿賀町のゲートキーパー養成研修、市民後見人養成研修に参加し、業務以外においても地域に貢献できるよう知識の習得を行った。

#### ② 内部研修

- ・平成 27 年度より義務化されたメンタルヘルス、職員のストレスチェックの研修を行い、職員の気持ちや身体の健康を保つことに繋がる研修を行うことができた。
- ・施設内における事故の増加に伴い、11 月から毎月、危険予知トレーニングを行い、事故の未然防止に繋がる「気づく力」の向上に取り組んだ。

## 5 東蒲の里 ボランティア活動状況

開催月	活動内容	参加者数
4月	・清拭たたみ	11
5月	・清拭たたみ	12
6月	・清拭たたみ ・利用者との談話	7
7月	・清拭たたみ ・七夕余興・利用者との 談話 ・納涼祭余興とお手伝い	34
9月	・清拭たたみ ・敬老会余興 ・利用者との談話	75
10月	・清拭たたみ ・利用者との談話	8
11月	・清拭たたみ ・利用者との談話	14
12月	・清拭たたみ ・忘年会、クリスマス会	60
1月	・清拭たたみ ・靴下の名札付け	3
2月	・清拭たたみ ・靴下の名札付け	4
3月	・清拭たたみ	3
合計		231人

## 6 東蒲の里 災害対策

### 1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
7月22日	緊急伝達訓練 ・夜間に緊急連絡網を使用し、職員への伝達訓練を行った。	40名 (職員)
8月24日	夜間想定避難訓練 ・阿賀町消防本部立ち会いのもと、夜間実際に職員を招集し、車いすやベッドを利用者に見立てて、避難誘導を実施した。	13名 (職員)
10月24日	県立津川病院との合同避難訓練(日中想定)	19名 (職員)

### 2. 消防設備点検

開催月日	訓練内容
5月31日	阿賀町消防本部による立ち入り検査 ・施設内部と地下タンク(灯油)貯蔵所の立ち入り検査を受けた。
6月17日	契約業者による消防設備の点検 ・スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
12月20日	契約業者による消防設備の点検 ・スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。



## 7 東蒲の里 苦情受付・対応報告

### 苦 情

#### <特養>

##### 1. 利用者家族より

最近、2階の職員が車椅子を押している速度が速すぎるように感じた。居室から出たときに、ぶつかって危ないのではないかと思った。

・申出者から苦情として上げて欲しくない并希望があったため、3日間のミーティングで申し送りをを行い、職員個々に対応を振り返ることとした。 <要因:サービスの質>

#### <特養>

##### 2. 医療機関職員より

「車椅子の汚れがひどいため、主に食べカスなどが多く見られ拭いておきました。非常に不衛生なので、汚れた時がありましたら、清掃をお願いいたします。定期的な(週に1回くらい)清掃をおすすめします。時間が経ったら汚れは落ちにくいのでよろしくをお願いいたします。」と連絡を受けた。

・医療機関職員へ、苦情に対して謝罪を行った。  
・毎月、車椅子を洗う日と洗う台数を決め、洗浄を行うこととした。

<要因:サービスの質>

#### <特養>

##### 3. 利用者家族より

申出があった利用者家族は、納涼祭に参加し、食堂において転倒、その後、救急車で搬送されていた。

「夏祭りが終わってから、2カ月も経って、怪我の具合などを確認しないのはおかしい。会社として、常識が外れている。他の職員もあれだけ見ているのに、その後の様子の確認もないのか。新潟中央病院に行き、2回手術をした。最初は、大腿骨と右肘との2回手術をした。その後、退院できるまで1カ月かかり、家に帰ってきたが杖を使い暮らしている。近所の朝市で職員さんから怪我の具合などを聞かれた。その時に、上の人と相談してくれと伝えたが、その後の連絡が無かった。」

・ご家族から状況の確認後、苦情に対して謝罪を行った。  
・職員研修において、苦情の内容を周知し、転倒した方が利用者家族であっても、怪我の様子の確認を行うことを周知した。

<要因:説明・情報不足>

<特養>

4. 利用者家族より

「面会に行くたびに肩から胸元にかけてよだれでビショビショになっています。着替えのパジャマが足りないのか。家で居たときは、タオルを首に掛けており、ビショビショになることはありませんでした。

大勢いるから1人1人見てくれってのも大変だって分かってるけど、あんな姿を見ると、やっぱり預けなければ良かったと後ろ髪が引かれる思いがします。

目やにもいっぱい付いたままで、顔を拭いてやってくるんさ。

着替えのパジャマが足りないようなら買って持ってくるので連絡を下さい。」

- ・ご家族に対して謝罪を行った。
- ・居室に伺った都度、衣服が汚れていないか確認し、汚れている際はその都度、タオルと衣類を交換するように周知した。

<要因:サービスの質>

<特養>

5. 利用者家族より

「面会に行ったとき、経管栄養が満タンに入っていたのに、ものの5分くらいですぐに終わってしまった。線のように流れていて、速度が速すぎるのではないか。

それと、タンスの中も見たが、タオルとかまるまったままごちゃごちゃに入っている。職員さんが忙しいと思うけど、直してもらいたい。」

- ・ご家族に対して謝罪を行った。
- ・経管栄養の流入速度は適切な速度で流すことと、季節に合わせた衣類の入れ替えを行うよう、職員に周知した。

<要因:サービスの質>

<短期>

6. 居宅介護支援専門員より

担当利用者のご家族から、「ショートステイを利用して帰ってくると体に皮下出血ができていく。」との相談を受けた。実際に介護を行っている介護職員の方には気をつけてもらいたい。

- ・連携ノートに相談内容を記載し、介護職員に知ってもらう。
- ・今後の対応について、検討を行い、統一した援助を行うよう周知した。

<要因:サービスの質>

苦情の発生件数

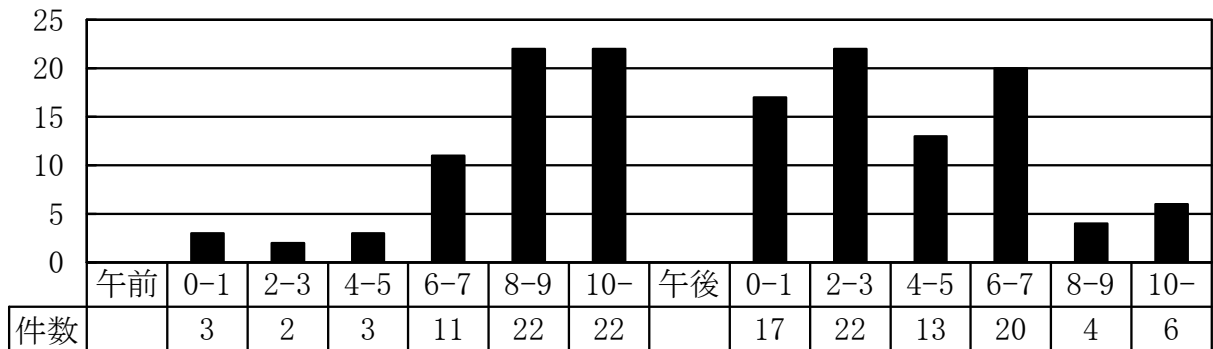
事業	件数
特養	5件
短期入所	1件
通所介護	0件
合計	6件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	1件
職員の態度	0件
サービスの質	5件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合計	6件

## 8 東蒲の里 事故等発生状況報告

### 1. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計 145 件〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	66 件
食堂・ダイニング	39 件
トイレ	5 件
廊下・玄関	14 件
浴室	7 件
施設外	4 件
その他	10 件
合計	145 件

### 3. 内容別発生件数

事故内容	件数
転倒・転落	61 件
裂傷・火傷	12 件
打撲・皮下出血	24 件
チューブ抜去	4 件
私物紛失	6 件
無断外出	1 件
異食・誤飲	12 件
誤薬	7 件
車輛事故	1 件
その他	17 件
合計	145 件

#### 4. 事故報告

- ・平成27年度と比較して、全体の発生件数が増加した（平成27年度82件、平成28年度145件）。前年度に比べて倍増している事故の発生場所が「食堂・ダイルーム」「廊下・玄関」となっていた。職員が配置されている場所での事故が増加しているため、11月から毎月の施設内研修において、継続的に「危険予知トレーニング」を行い、気付く力の向上に取り組みました。

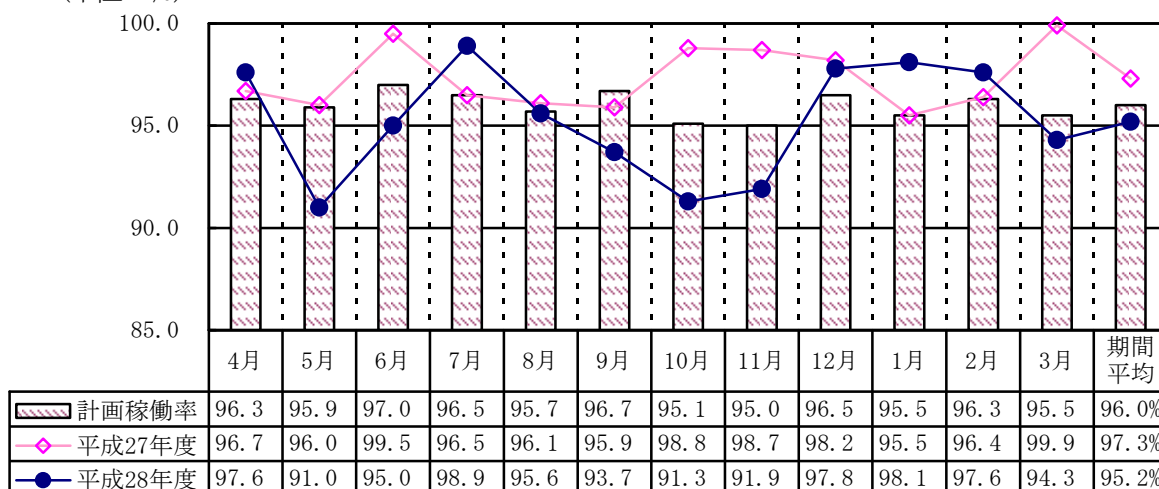
Ⅲ 平成28年度社会福祉法人東蒲原福社会  
東蒲の里みかわ園 事業報告

	頁
1. 介護老人福祉施設（特 養）	35
2. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	39
3. 通所介護事業（デイサービス）	44
4. 生きがい支援事業	48
5. 高齢者生活支援ハウス	49
6. 外出支援サービス事業	50
7. 東蒲の里みかわ園研修報告	51
8. 東蒲の里みかわ園ボランティア活動状況	53
9. 東蒲の里みかわ園災害対策	54
10. 東蒲の里みかわ園苦情受付・対応報告	55
11. 東蒲の里みかわ園事故等発生状況報告	57

# 1 介護老人福祉施設

## 1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

・介護老人福祉施設の1日定員(50人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,378日であったことから

$$\frac{17,378 \text{ 日}}{18,250 \text{ 日 (50人} \times 365 \text{ 日)}} = 0.9522 \quad \text{稼働率 } 95.2\%$$

(延べ利用日数)                      (定員)      (実稼働日数)

## 2. 要介護度別入所者数(平成29年3月31日現在)

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
平成27年度	1	2	14	16	17	3.92
平成28年度	1	2	9	19	19	4.06

## 3. 要介護度状態の変化(平成29年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	1人
維持	40人
悪化	9人
合計	50人

#### 4. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月12日 22日	花 見	・阿賀町内の桜を見に行き、季節を感じていただいた。
7月7日	七 夕 会	・短冊に願いを書いて笹に飾り、七夕飾りと一緒に記念撮影を行った。
7月24日	三 涼 祭	・地域のボランティアの方に多数来園していただき、屋台などの催し物や津川民謡愛好会による太鼓と踊りで楽しんでいただいた。
9月4日	敬 老 会	・式典及び祝宴を行い、余興では民謡や踊りで楽しんでいただいた。
12月18日	忘 年 会	・会食を行い、職員がサンタクロースに扮し、ご利用者にプレゼントを贈った。
12月30日	そば打ち	・職員がそば打ちを行い、ご利用者に年越しそばを食べていただいた。
3月3日	ひな祭り	・甘酒とケーキを楽しみ、雛飾りと記念撮影を行った。
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉津地区「観桜会」に参加(5月1日)</li> <li>・ラーメンボランティアによるラーメンの振る舞い(6月9日)</li> <li>・新発田市のボランティア(チーム・アイビー)による演歌、歌謡曲(7月5日)</li> <li>・津川地区の祭りに参加(8月26日)</li> <li>・あが野ニュータウンの祭りに参加(10月10日)</li> <li>・三川きのご園へバスハイク(10月13日)</li> <li>・吉津地区「川ガニを食べる会」に参加(11月8日)</li> </ul>



5. 事業報告(総括)

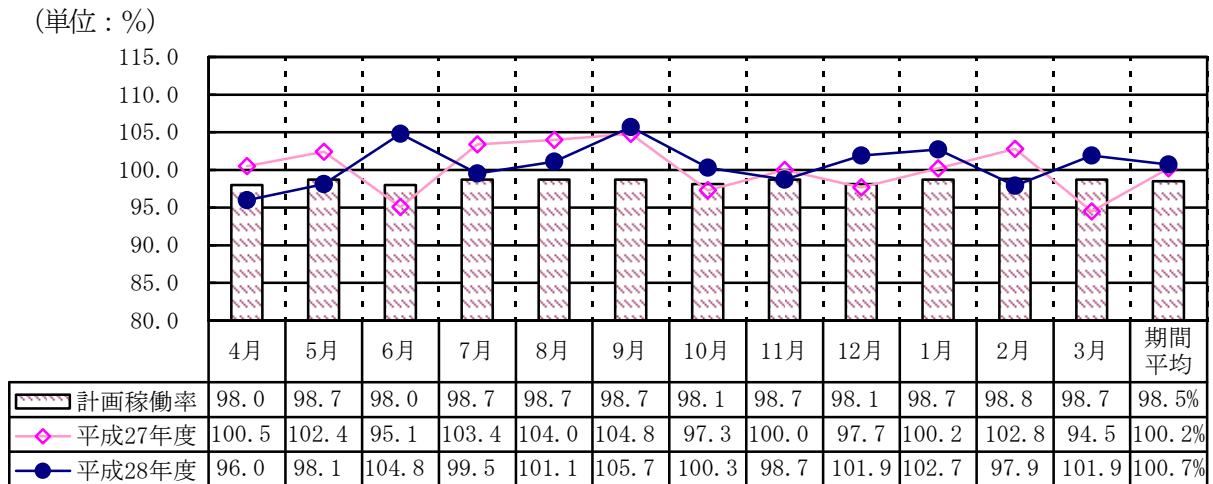
自立支援に向けて科学的介護を実践し介護の専門性を高めます。	
取組事項	<p>① 介護力向上研修で培った知識や技術を役立て、お一人お一人の分析を行い、根拠に基づいた介護を実践し、生活動作を改善します。</p> <p>② 在宅復帰ができる施設として、在宅サービスの一端を担えるよう在宅入所相互利用の取り組みを継続します。</p> <p>③ 在宅サービス事業と連携を図り、在宅復帰後も安心した在宅生活が送れるように情報提供を行い支援します。</p>
実績	<p>① ご利用者に合わせた食事形態や、従来から取り組んでいる水分摂取量の強化によって改善が見込める「活動性」と「排泄」への流れ(関連)を周知することで実施できた。</p> <p>② 居宅介護支援専門員及び、ご家族と連携を図りながら、3カ月毎に在宅入所相互利用者の計画、受け入れを行う事ができ、在宅復帰後の日常生活が安全に過ごせるよう援助する事ができた。年間4名の方に利用していただいた。</p> <p>③ 入所前、入所後、退所前に、居宅及び、施設の介護支援専門員が家族と調整を行いカンファレンスを実施して情報提供、共有を行う事ができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護力向上の基本の一つである「運動」と「具体的な活動内容」への取り組みが不足していたため、実施できる体制を作る。</li> <li>・今後も在宅入所相互利用の取り組み内容を広く地域に知っていただけるよう取り組むと共に、ご家族の負担を軽減できるように身体機能や生活動作の改善を図っていく。</li> </ul>

地域との交流を深め、地域に根ざした明るい施設を目指します。	
取組事項	<p>① ご利用者が地域の一員として、社会参加ができるよう地域行事等への参加を積極的に行います。</p> <p>② 家族や地域住民に向けた意見交換会や交流会を計画し実施します。</p>
実績	<p>① 地域の清掃活動や祭りなどの行事へ参加することで利用者の方が生き生きとして喜びを感じることができた。</p> <p>② 家族や地域住民に向けた意見交換会や、サロンへの参加機会を作れず、思うように交流が図れなかった。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や町の行事にも参加できるように計画を立て、今年度以上に社会参加ができるように取り組む。</li> <li>・来年度は施設の取り組みをアピールできるように各専門職が地域サロン等に参加できるように取り組む。</li> </ul>

ご利用者それぞれがかかりやすい病気の再発を予防します	
取組事項	<p>① 異状や疾病の早期発見、感染症の発生予防と拡大防止に努めます。</p> <p>② 入院する要因となった病気の予防策を検討し、個別ケアに反映します。</p>
実績	<p>① 感染症委員会とインフルエンザ等の情報共有を行い、対策を検討し予防策を実施し、感染症の、拡大を予防することができた。</p> <p>② 特養利用者の高齢化と共に、防ぎようのない持病の悪化による入院も多くあった。肺炎、尿路感染、蜂窩織炎等、日々のケアの積み重ねで出来る予防策を毎日のミーティング、連絡ノート、カンファレンスで周知して努めてきたが、利用者の重度化と個別ケアが多くなる一方、マンパワー不足があり、個別ケアへ十分に反映できていない現状であった。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団生活の場での感染症は予防策の徹底が重要であり、職員の意識も重要視される。今後も全職員で感染症対策の徹底を図り拡大防止に努める。</li> <li>・ 利用者個々の疾病への理解を深め、ケア検討とケア実践の徹底、身体状況の変化から疾病の早期発見、早期対応を行い再発予防に努めていく。</li> </ul>

## 2 短期入所生活介護事業

### 1. 施設利用稼働率



#### ※稼働率について

- ・短期入所の1日定員(20人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。  
1年間の延べ利用日数が7,354日であったことから

$$\frac{7,354 \text{ 日}}{7,300 \text{ 日} \langle 20 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle} = 1.0073 \quad \text{稼働率 } 100.7\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

#### ※稼働率が100%を超えている理由について

- ・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が100%を超えている状況です。

### 2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成27年度	26	68	16	1,159	1,956	1,313	1,641	1,157	7,336日
平成28年度	55	90	19	1,429	1,673	1,095	1,892	1,101	7,354日

### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	54	56	55	62	54	58	52	51	68	52	48	45	55人
延べ利用日数	576	608	629	617	627	634	622	592	632	637	548	632	612日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成 27 年度	1.22	4.66 日	2.85	11.37 日
平成 28 年度	1.14	5.19 日	2.93	11.69 日

#### 5. 要介護度状態の変化(平成 29 年 3 月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	5 人
維 持	1 人	30 人
悪 化	2 人	6 人
合 計	3 人	41 人

#### 6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4 月 20 日	お花見バスハイク	・揚川ダムで花見を楽しんでいただいた。
7 月 7 日	短期入所利用者 家族交流会	・ご利用者とご家族、職員と一緒に郷土料理(しかみ芋)を作り交流を図った。
11 月 9 日	収穫祭	・ご利用者と一緒に芋煮を作り皆さんで食べて頂いた。
12 月 22 日 12 月 27 日	忘年会	・職員がそば打ちを行い、ご利用者に年越しそばを振る舞った。
1 月 3 日	新年会	・ご利用者に甘酒、おしるこを振る舞いお正月の雰囲気を感じていただいた。
2 月 3 日	節分 (豆まき)	・職員が鬼に扮して豆まきを楽しんでいただいた。
3 月 3 日	ひな祭り	・ひな祭りの歌を唄い、ケーキとジュースを食べ楽しんでいただいた。
その他	・夏祭り、敬老会については特養部門と合同で開催した。	

## 7. 事業報告(総括)

定期利用者の推進と新規利用者の確保。	
取組事項	<p>①定期的な利用者や新規利用者開拓の為、ケアマネや病院との更なる情報の共有化と、報告・訪問・担当者会議へ積極的に出席し連携を強化します。</p> <p>②利用者から選んでいただける施設となる活動を行い、また宣伝に取り組みます。</p>
実績	<p>①病院の相談員と随時、情報交換を行い、またサービス担当者会議へ積極的に参加して、みかわ園短期入所のサービス対応内容を紹介してきたことで、緊急利用や長期利用希望の増加に繋がった。</p> <p>②7月に家族交流会を開催し、10名のご利用者ご家族に参加していただいた。郷土料理作りを通してご利用者、ご家族、担当職員が交流を図った。ご家族から「こういう機会があると介護しているのは自分だけじゃないと強く明るい気持ちになる」と感想をいただいた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携の重要性を理解しサービスを実践していけるよう、担当ケアマネや、相談員だけでなく、今後は担当介護職員が、サービス担当者会議などに参加していける体制を作る。今後も関係機関との連携を緊密に行い支援していき、職員の医療的ケアの質の向上を図っていく。</li> <li>・ 家族交流会を今後も開催し、多くの方に参加していただけるように取組み、更にみかわ園の活動状況知っていただける取組みを強化していく。</li> </ul>

ご利用者、ご家族の利用満足度の向上。	
取組事項	<p>①マニュアルの見直しや自己評価を行い、心のこもった基本的ケアを徹底します。</p> <p>②施設内外の研修に積極的に参加しその内容を共有し合い職員のスキルアップ及び専門性の向上につなげます。</p> <p>③併設のデイサービスと連携し、アクティビティや機能訓練を行い一体的なサービス利用が出来るよう取り組みます。</p>
実績	<p>①援助マニュアルを見直し、基盤にあるのは基本的ケア・心のこもったケアであることを職員で徹底し、気づきや傾聴態度、笑顔の自己評価を行い自身の業務を振り返る機会が持てた。10月にご利用者ご家族を対象に利用満足度アンケートを実施し、貴重なご意見をいただき業務に反映することが出来た。</p> <p>②施設内外の研修会に積極的に参加でき、知識・技術を学んだが、職員間で内容についての情報共有が十分図れていなか</p>

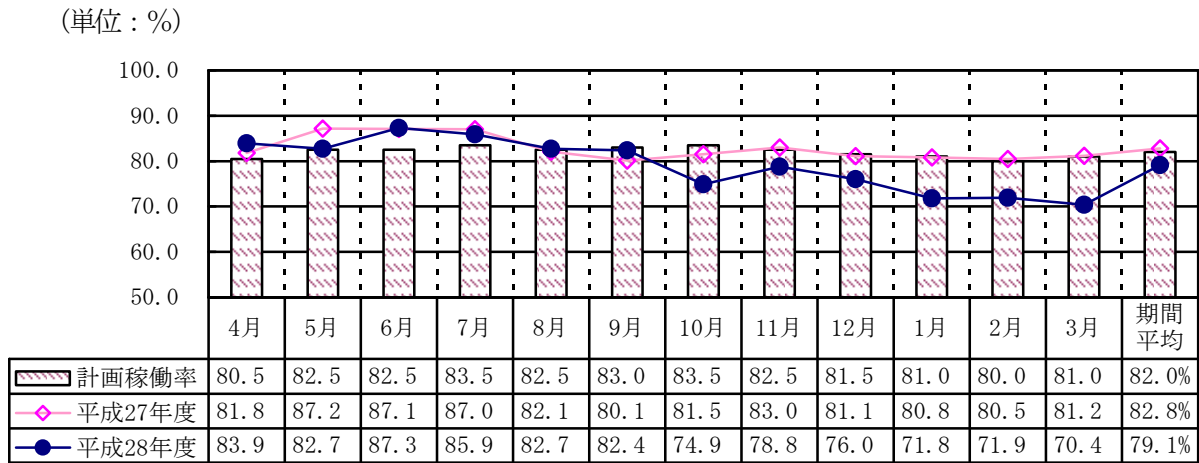
	<p>った。</p> <p>③デイサービスと連携会議を開催し、機能訓練やアクティビティの取組みとケア方法の共有について検討し、代表職員を決め、利用者の状態変化や援助方法が変更する際には情報共有を行う体制を作った。連携して取り組んできたことにより要介護4から要介護1に改善した成果があった。奥山理学療法士より、褥瘡や拘縮がある方の座り方や体位交換について、新たな知識・技術の指導を受け、援助に取り入れることができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続してマニュアルを使って自己評価を行い、振り返る機会を作りサービスの質を向上させる。</li> <li>・ 職員間で、研修で学んだ知識と技術の共有が図れるよう毎月のグループ会議等で時間を設ける。</li> <li>・ 今後も、共通するご利用者を連携して効果的、継続的に訓練や援助ができるよう知識・技術を高めて取り組んでいく。</li> </ul>

個別ケア、認知症ケア、医療的ケアの推進。	
取組事項	<p>①ご利用者のニーズを把握し、個別性や生活リズムを重視し援助します。</p> <p>②認知症の症状別特徴を把握し、ご利用者ご家族のニーズに即した生活支援を行います。</p> <p>③看取りや重度者の利用に対応できるよう、喀痰吸引等、医療的ケアの専門性を高め介護・看護が強調し、連携を強化します。</p>
実績	<p>①個別の健康状態や生活環境を再度アセスメントし日中の活動と夜間の睡眠を基本として、生活リズムが安定するように個別支援を行ってきた。また、「嫌なことアセスメント」をツールとして活用し、何がどう嫌なのかを分析し、嫌になる要素をなくしていく取組みを行った。</p> <p>②「やさしく声かけ、やさしく触れる」を職員の合言葉に援助を実践してきたことで、ご利用者が和やかになっただけでなく、職員側も心が和らぐという声が上がって良い効果が表れた。</p> <p>③医療依存度が高いご利用者を積極的に受け入れながら、医療機関と多職種が連携して援助することが出来た。10月に介護職員の為の医療的ケア研修を開催した。職員は技術に対する自信と責任を感じ、より良いケアを深めて行きたいと、モチベーションアップにも繋がった。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組みにより少しずつではあるが、認知症の周辺症状を和らげることが出来た。今後も活動性の向上や、認知症状の改善に向けて継続して取り組んでいく。</li> <li>・ 利用中の穏やかな生活環境を維持していけるように、職員一</li> </ul>

	<p>人ひとりが意識して「やさしく声かけ、やさしく触れる」を継続して取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 今後も、医療的ケアが必要なご利用者の対応力向上に向け、連携して実績を積み重ねていく。</li></ul>
--	---

### 3 通所介護事業

#### 1. 施設利用稼働率



#### ※稼働率について

・通所介護事業の1日定員(22人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が6,302日であったことから

$$6,302 \text{ 日} \div 7,964 \text{ 日} (22 \text{ 人} \times 362 \text{ 日}) = 0.7913 \quad \text{稼働率 } 79.1\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

#### 2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成27年度	37	367	552	1,795	1,780	702	528	852	6,613日
平成28年度	35	298	270	2,111	1,475	578	818	717	6,302日

#### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	69	70	71	73	70	66	68	73	67	70	66	63	69人
延べ利用日数	534	564	573	590	565	544	511	520	519	442	452	488	525日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成27年度	1.46	5.95日	2.43	7.68日
平成28年度	1.48	4.91日	2.41	8.17日



5. 要介護度状態の変化(平成 29 年 3 月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	2 人	8 人
維 持	6 人	38 人
悪 化	1 人	8 人
合 計	9 人	54 人

6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
6 月 5 日	買い物バスハイク	・ご利用者と一緒にお買い物に出かけ、園芸用品等を選んでいただいた。
8 月 4 日 ～ 7 日	合同夏祭り	・ご利用者の皆さんに屋台や御輿、ゲーム景品など、夏祭りの雰囲気を感じていただいた。
9 月 19 日 ～23 日	敬老会	・記念品の贈呈を行い、「賀寿」の対象の方を中心にお祝いした。
12 月 22 日 27 日	忘年会	・職員がそば打ちを行い、ご利用者に年越しそばを振る舞った。
1 月 12 日 ～15 日	新年会、 団子さし	・ご利用者に甘酒を振る舞い、職員の余興でお正月の雰囲気を感じていただいた。
2 月 3 日	節分 (豆まき)	・職員が鬼に扮して、豆まきを行い楽しんでいただいた。

## 7. 事業報告(総括)

ご利用者及びご家族の在宅生活を支え、生活環境が改善するよう、特色あるリハビリを実施します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 奥山理学療法士の指導を継続するとともに、「温熱療法」に取り組むことで疼痛を緩和し、リハビリの効果が上がるよう支援します。</li> <li>② リハビリの目的や効果について、ご利用者やご家族に説明を行い、意欲的に機能訓練を実施できるよう支援し、取り組みます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① グループ会議にて、機能訓練メニューや温熱療法の知識、実施方法、個別の留意点について研修を行い全職員に周知して取り組んだ。</li> <li>② リハビリ開始時にタブレットを使用し、リハビリ内容の紹介をご家族に実施した。実際に映像を見ることで、分かりやすくて良いと評価をいただいた。機能訓練実施前後の歩行状態を撮影することで理学療法士が比較して見ることができ、評価から訓練実施に繋ぐサイクルを確立した。また、理学療法士の評価、指導を継続して受けてきたことで、ご利用者は意欲的に取り組み、状態維持や改善に繋がる方が増えている。</li> <li>③ ホットパック導入による温熱療法においては、対象者に個人差はあったが、痛みや痺れの軽減を実感していただき、訓練をスムーズに進めることができた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理学療法士の指導を元に、次年度も事業所内研修を行い、全職員が機能訓練の知識や技術の向上に取り組んでいく。</li> <li>・ 理学療法士に訓練を指導していただく対象者が限られているため、次年度は、対象者を増やして取り組んでいく。</li> </ul>

認知症ケアの質を高め、生活能力や意欲を向上させる支援を行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 在宅での生活を継続できるように、認知症実践者研修で得た知識を生かして、症状別の根拠に基づいた認知症ケアや専門的な関わり方を実践します。</li> <li>② ご利用者の認知症状に対応し、ご利用者が目的を持ち継続して取り組むことができるアクティビティ活動を提供します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 認知症ケア「関わりかたについて」事業所で研修会を開催した。認知症対象者への取り組みとして、相手の気持ちや感情をやわらげる会話や、話を聴こうとする姿勢を心がけ、利用者がコミュニケーションをとりやすい環境を検討し、落ち着いて過ごせるよう心がけて取り組んだ。</li> </ul>

	② 役割や社会関係の喪失感の解消を図るため、利用者個々の状態や意欲、嗜好に配慮して、認知能力機能訓練(脳活性化トレーニング)、創作活動、ペグボード等を活用し、集中して実施する時間をつくることで、落ち着かない等の行動が減少し、徐々に注意力、集中力、記憶力の向上が見られ、認知症の症状が緩和する効果があった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後は、個々の目標を設定し、訓練内容の選択肢を増やして取り組む。機能訓練の効果等の広報活動を積極的に行い新規利用や定期的なサービス利用につなげていく。</li> <li>・ 今後も、職員が研修会に参加し、認知症対応の専門性を高め、認知症ケア加算の算定に向け取り組む。</li> </ul>

利用者が安心して利用できるよう、ご家族との連携を深める取り組みを行います。	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 関係機関へ訪問し、実践しているサービスや活動を発信して、利用者確保に取り組めます。</li> <li>② 在宅へ訪問し、ご家族とのコミュニケーションを大切に、精神的支援を行いながら、活動状況の報告や情報交換を行います。</li> <li>③ 法人内事業所と連携を図り、一人ひとりのご利用者に連動したサービスを行います。</li> </ol>
実績	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ケアマネ事業所に対し、体験利用の案内配布を行い、また新規利用希望者に、訓練の様子や入浴介助の様子等、サービス利用の前に情報提供し、安心してご利用していただくことができた。</li> <li>② ご家族から自宅での様子を聞き取り、ご利用者のADLの変化、健康面や不適応行動、機能訓練、介護方法に関する相談を受け、職員が助言、提案を行ったことで問題の早期発見に繋がった。また在宅介護におけるご家族の不安を軽減することができ、信頼関係を築くことができる機会となった。</li> <li>③ 在宅サービス連携会議において、ショートステイ、訪問介護事業所と利用者援助に関する課題や改善点を取りまとめ、目標の共有を図り、連携したサービスの向上に取り組んだ。</li> </ol>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族交流会や意見交換会の開催を計画したが、企画時期が遅く、感染症予防の観点から実施することができなかつたため、時期を早めて計画する。</li> <li>・ 在宅生活に役立つ機能訓練ができるよう、担当職員が定期的に在宅へ訪問し、ご家族と情報共有ができる体制を作る。</li> </ul>

## 4 生きがい支援事業

### 1. 生きがい支援事業利用状況

	新規登録者数 (人)	登録者数 (人)	登録終了者数 (人)	事業日数 (日)	延べ利用者数 (人)	1日平均利用者数 (人)
4月	0	14	0	8	59	7.3
5月	1	15	0	8	59	7.3
6月	0	15	0	8	52	6.5
7月	0	15	0	9	53	5.8
8月	0	14	0	8	49	6.1
9月	0	13	1	9	66	7.3
10月	0	13	0	8	58	7.2
11月	0	13	0	9	59	6.5
12月	0	13	0	8	44	5.5
1月	0	11	2	8	49	6.1
2月	0	11	0	8	51	6.3
3月	0	11	0	9	51	5.6
年間統計	1人		3人	100日	650人	6.5人

### 2. 生きがい支援事業活動報告

4月	郷土料理作り 手工芸	10月	バスハイク・作品展見学 (上川) 和紙細工作品づくり
5月	お花見バスハイク 山菜パーティー、軽食づくり	11月	陶芸焼き 手工芸
6月	陶芸作品づくり 書道	12月	脳活性化トレーニング、 忘年会
7月	七夕会 郷土料理作り	1月	脳活性化トレーニング 手工芸
8月	手工芸、	2月	脳活性化トレーニング 作品展示品づくり
9月	手工芸、陶芸彩色	3月	脳活性化トレーニング ひなまつり会

## 5 高齢者生活支援ハウス

### 1. 生活支援ハウス利用状況

	新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数		新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数
4月	0	0	5	10月	0	0	5
5月	0	0	5	11月	0	0	5
6月	0	0	5	12月	0	0	5
7月	0	0	5	1月	1	0	6
8月	0	0	5	2月	0	0	6
9月	0	0	5	3月	0	0	6
				合計	1人	0人	63人

### 2. 年間行事・交流会

入居者同士の交流やみかわ園の利用者、地域との交流のため、行事企画や参加を支援した。

月日	行事
7月 1日	七夕茶話会
7月 24日	みかわ園三涼祭
9月 10日	阿賀町敬老会参加
9月 23日	支援ハウス敬老会
12月 18日	クリスマス・忘年会
2月 3日	節分豆まき
3月 3日	ひな祭り食事会

### 3. 介護サービス利用状況

利用介護サービス	利用入居者数
デイケア	1人
デイサービス・訪問介護	1人

## 6 外出支援サービス事業

### 1. 外出支援事業利用状況

平成28年度実績		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間実績
利用件数		9	5	9	4	7	4	6	7	8	6	6	9	80件
地域	郡内	8	5	8	2	4	3	6	5	8	5	5	6	65件
	郡外	1	0	1	2	3	1	0	2	0	1	1	3	15件

### 2. 外出支援状況

利用目的	受付件数	実施件数
受診移送	88件	69件
入院移送	0件	0件
退院移送	11件	11件
外出移送	0件	0件

月平均利用件数	6.6件
一件の平均距離	53.8km
一件の平均所要時間	1.8時間

## 7 東蒲の里みかわ園 研修報告

### 1. 外部研修種別の内訳

項 目	内 容	主 な 研 修
技 術 向 上 人 材 育 成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び、対人援助に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	喀痰吸引等研修
		安全運転管理者等講習
		認知症介護実践研修
		阿賀町市民後見人養成研修
		社会福祉施設「新任職員」研修
		中堅職員研修
		「看取り」を考える研修会
		多職種連携研修・口腔ケア編
		社会福祉法人主任・係長研修
		安全衛生教育研修
		医学的知識習得研修会
		高齢者の栄養と摂取食を支える会 研修会
		高齢者介護施設等感染症対策研 修会
		認知症予防と小規模多機能
		水害・土砂災害への備え
		リスクマネジメント研修
		障害者総合支援法等関係説明会
		社会福祉法人改革対策セミナー
看取り実践セミナー		
コーチング研修		
科学的介護スキルアップ研修会		
そ の 他	情報管理説明会など	経営戦略セミナー

## 2. 内部研修参加状況

開催日	研修名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
平成28年 5月26日	・施設におけるプライバシー保護 ・個人情報について ・倫理及び、法令遵守について ・食中毒について	42	30	71.4
平成28年 6月22日	・災害防災対策について ・身体拘束について ・高齢者虐待について	40	31	77.5
平成28年 7月26日 平成28年 7月27日 平成28年 7月28日	・救急法講習	38	38	100.0
平成28年 8月31日	・リスクマネジメントについて ・認知症ケアについて ・事故・苦情についての指導	44	28	63.6
平成28年 9月28日	・腰痛予防とトランスファー(移乗動作)について	44	33	75.0
平成28年10月26日	ターミナルケアについて	39	32	82.1
平成28年11月30日	・感染症対策について ・防災マニュアルについて ・身体拘束について	38	28	73.7
平成28年12月21日	褥瘡予防について	38	24	63.2
平成29年 2月22日	リスクマネジメントについて	35	23	65.7

## 3. 研修報告(総括)

### ① 外部研修

- ・介護力向上研修で習得した知識、技術を周知徹底したことにより、職員の取り組む意識が高まった。この取り組みによりご利用者の身体状況の改善につながり、特養入居者の入院者数が減少するなどの効果が表れた。

### ② 内部研修

- ・事故・苦情内容については、施設長から園内研修の場で指導を行うことで、再度、自分自身の行動を考え直す機会となり、今後の対応にいかせるよう周知徹底することができた。



## 8 東蒲の里みかわ園 ボランティア活動状況

開催月	活動内容	参加者数
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設外周及び中庭の草刈り。</li> <li>・ラーメン屋によるラーメンの振る舞い。</li> <li>・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。</li> </ul>	37
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設外周及び中庭の草刈り。</li> <li>・歌謡ボランティア(新発田市)によるコンサート実施。</li> <li>・三涼祭(夏祭り)屋台など。</li> <li>・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。</li> </ul>	61
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など</li> </ul>	10
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など</li> </ul>	17
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など</li> </ul>	14
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など</li> </ul>	21
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など</li> </ul>	15
合計		175人

## 9 東蒲の里みかわ園 災害対策

### 1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
6月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間想定避難訓練(緊急伝達訓練含む) 夜間、実際に緊急連絡網により職員を招集し、模擬利用者や車いすをご利用者に見立て避難誘導を実施した。</li> </ul>	41名 (職員)
10月26日	日中想定避難訓練 <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿賀町消防本部立ち会いのもと、ご利用者参加による避難訓練を実施した。</li> <li>・吉津区、谷沢区の区長に参加していただいた。</li> </ul>	25名 (職員) 4名 (利用者) 2名 (地域)
2月6日	緊急伝達訓練 <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間に緊急連絡網を使用し、職員への伝達訓練を行った。</li> </ul>	57名 (職員)

### 2. 消防設備点検

開催月日	訓練内容
6月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。</li> </ul>
6月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿賀町消防本部による立ち入り検査 施設内部の立ち入り検査を受けた。</li> </ul>
12月18日	契約業者による消防設備の点検 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。</li> </ul>

## 10 東蒲の里みかわ園 苦情受付・対応報告

### 苦 情

#### <特養>

##### 1. 利用者家族より

入所してから2度目の事故報告の電話をもらったが、どちらも同じ職員による事故だった。気をつけていれば防げる事故ではないのか。今後きちんと指導して注意してほしい。

・同じ職員が事故を発生させてしまった事を謝罪し、職員へ指導する。また、同じような事故を繰り返さないため、施設長より全職員へ苦情に対する指導を行い、家族へ報告した。

<要因:サービスの質>

#### <特養>

##### 2. 利用者家族より

事故の報告を受けたがどの原因も納得がいかない。また、後日連絡すると言っていたにもかかわらず連絡もなかった。施設に行った際に、他の職員が丁寧にわかりやすく対応してくれたのだが、連絡を頂いた職員は素通りで不快な思いをした。

・家族が来園された際には積極的に職員側から声をかけ、日々の様子を丁寧に伝えることを徹底し、更に職員会議の場で施設長より、今回の苦情内容と対応についての指導を行った。

<要因:職員の態度>

#### <特養>

##### 3. 地域住民の方より

阿賀町でインフルエンザが流行し、みかわ園でも面会制限を行っていると聞きました。また、職員の方も感染して休んでいると伺ったが施設の外でマスクを着用せずにいる職員を見かけました。危機管理に対しての意識が不十分なのではないか。

・来園者に手洗い、うがい、面会制限をお願いして協力してもらっているということを再度自覚してもらうように周知徹底する。また、外出時にはマスクを着用するよう再度指導を行う。

<要因:職員の態度>

#### <通所>

##### 4. 介護支援専門員より

利用者家族が靴下を脱がせたら、右足第二指の爪が剥がれそうになっていた。前回も同様なことがあって今回が2度目である。ケアの方法に問題があるのではないかと問い合わせがあった。

・同じ事故を繰り返したことで本人に何度も苦痛を与えてしまったことと、家族に不信感を抱かせてしまったことを謝罪する。今後、このようなことがないようにケアの見直しを行い改善し、全職員に周知徹底を図った。

<要因:サービスの質>

苦情の発生件数

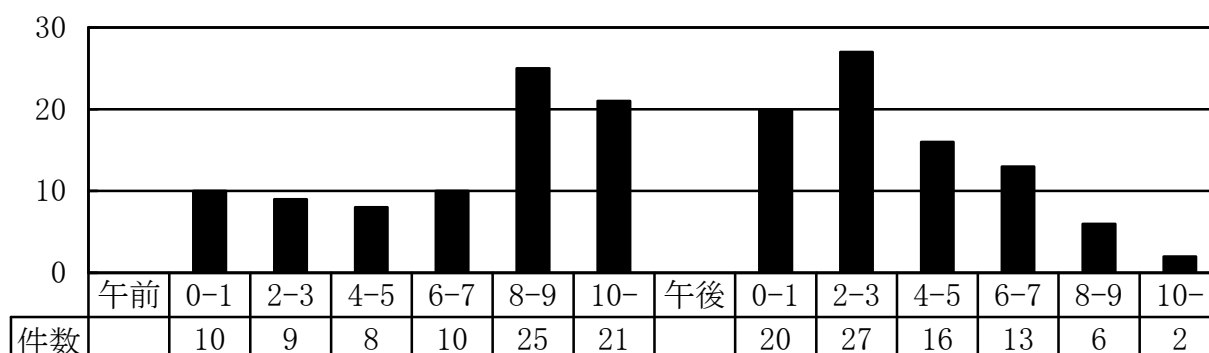
事業	件数
特 養	3 件
短期入所	0 件
通所介護	1 件
合 計	4 件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	1 件
職員の態度	2 件
サービスの質	1 件
サービスの量	0 件
権利侵害	0 件
その他	0 件
合 計	4 件

## 11 東蒲の里みかわ園 事故等発生状況報告

### 1. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計 167 件〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	60 件
食堂・ダイルーム	55 件
トイレ	9 件
廊下・玄関	11 件
浴室	26 件
施設外	6 件
その他	0 件
合計	167 件

### 3. 内容別発生件数

発生場所	件数
転倒・転落	73 件
裂傷・火傷	29 件
打撲・皮下出血	36 件
チューブ抜去	0 件
私物紛失	0 件
無断外出	0 件
異食・誤飲	2 件
誤薬	11 件
車輛事故	2 件
その他	14 件
合計	167 件

#### 4. 事故報告

- 各事業所で事故等の発生後に事故原因の分析と検証を行い、発生件数については、平成27年度が174件であったが、平成28年度は167件に減少している。「転倒・転落」と「打撲・皮下出血」の発生件数が増えて来ているため、今後も事故の原因分析と検証を行い、対策を周知徹底して事故予防に取り組む。

## IV 平成28年度社会福祉法人東蒲原福社会

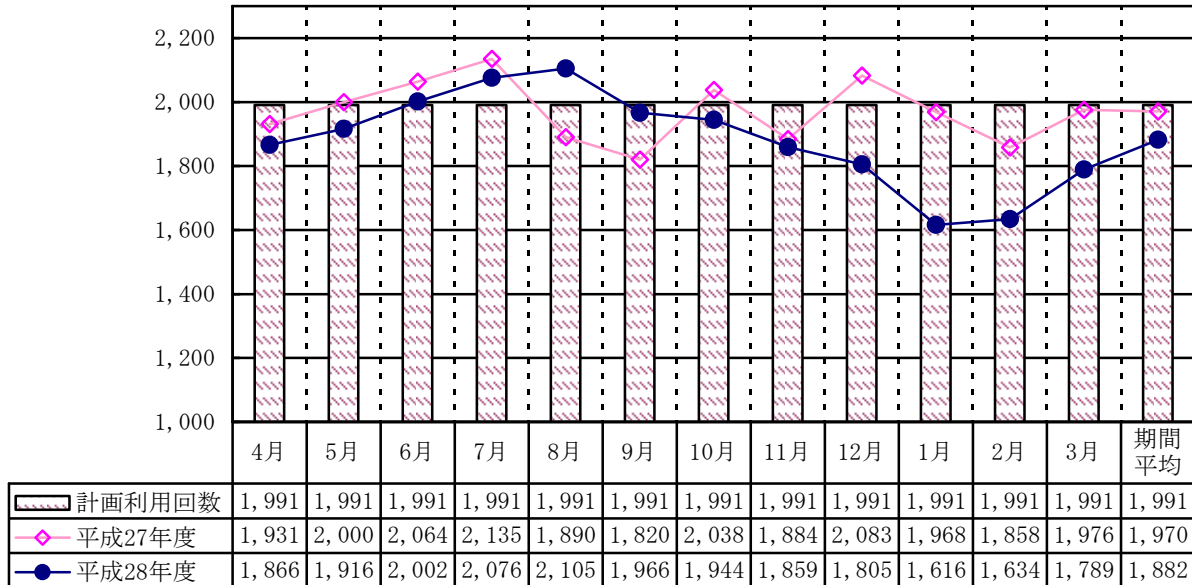
### とうかん福祉サービス 事業報告

	頁
1. 訪問介護事業（介護保険）	59
2. 軽度生活支援事業	63
3. 閉じこもり予防ケア訪問事業	63
4. 高齢者生活調査事業	63
5. 障害福祉サービス事業（障害者自立支援）	63
6. まごの手サービス（介護保険外事業）	64
7. 居宅介護支援事業（介護保険）	66
8. とうかん福祉サービス研修報告	70
9. とうかん福祉サービス災害対策	72
10. とうかん福祉サービス苦情受付・対応報告	73
11. とうかん福祉サービス事故等発生状況報告	75

# 1 訪問介護事業

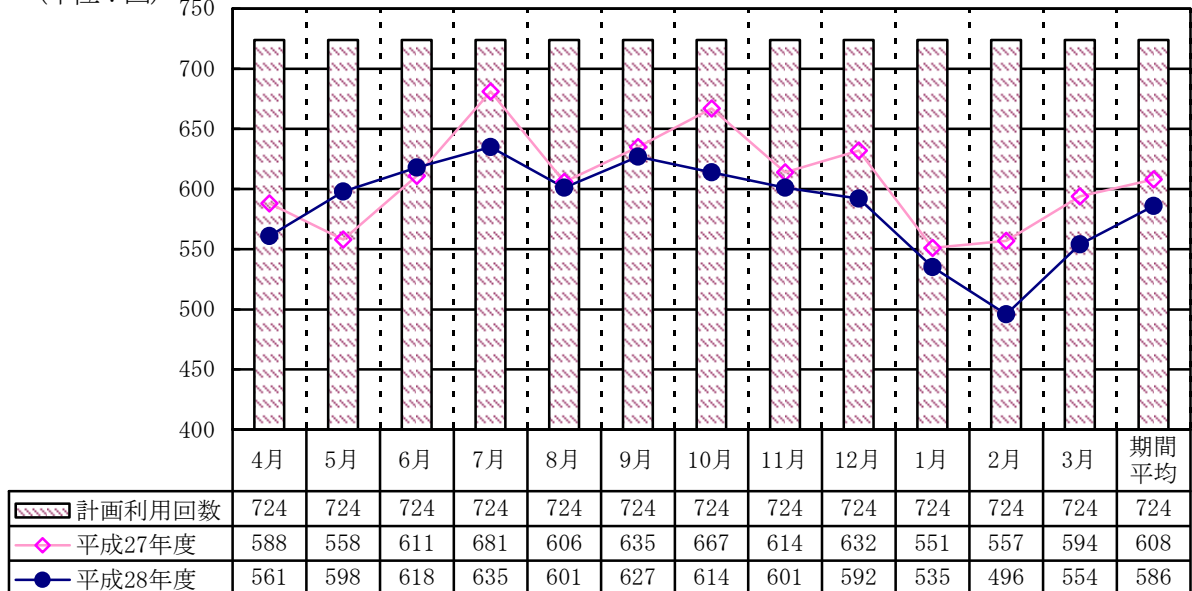
## 1. 訪問介護月別実績状況

(単位：回)



## 2. 予防訪問介護月別実績状況

(単位：回)





### 3. 月別利用状況(予防訪問介護事業含む)

月別区分	利用者数	利用状況			稼働率
		予約	キャンセル	実績	
4月	192人	2,607回	180回	2,427回	93.1%
5月	193人	2,802回	288回	2,514回	89.7%
6月	204人	2,840回	220回	2,620回	92.3%
7月	206人	3,003回	292回	2,711回	90.3%
8月	203人	3,073回	367回	2,706回	88.1%
9月	201人	2,827回	234回	2,593回	91.7%
10月	206人	2,829回	271回	2,558回	90.4%
11月	206人	2,704回	244回	2,460回	91.0%
12月	196人	2,703回	306回	2,397回	88.7%
1月	181人	2,417回	266回	2,151回	89.0%
2月	182人	2,397回	267回	2,130回	88.9%
3月	181人	2,604回	261回	2,343回	90.0%
計	2,351人	32,806回	3,196回	29,610回	90.3%
月平均	196人	2,742回	266回	2,468回	—

※稼働率について

訪問介護事業の予約数を100%として、それに対して実際に利用した実績がどの程度の割合かを示します。

利用実績が29,610回で、予約数が32,806回であったため、

$29,610 \div 32,806 = 0.9025$  稼働率 90.3%

### 4. 利用者状況の変化

月区分	新規利用者	利用中止				
		施設入所	事業所変更	死亡	その他	計
4月	5人	2人	0人	1人	2人	5人
5月	8人	2人	0人	2人	2人	6人
6月	9人	1人	0人	0人	0人	1人
7月	6人	1人	0人	1人	2人	4人
8月	9人	0人	2人	4人	0人	6人
9月	5人	0人	0人	1人	0人	1人
10月	5人	0人	0人	0人	1人	1人
11月	8人	2人	0人	2人	0人	4人
12月	13人	3人	1人	2人	0人	6人
1月	3人	2人	0人	1人	1人	4人
2月	4人	5人	0人	2人	1人	8人
3月	8人	3人	0人	2人	1人	6人
計	83人	21人	3人	18人	10人	52人

5. 要介護度別利用延べ回数

	要支援		要介護度					計
	1	2	1	2	3	4	5	
平成27年度	4,279	3,015	6,275	3,887	2,571	5,740	5,174	30,941 回
平成28年度	4,375	2,657	5,137	3,592	3,287	6,312	4,250	29,610 回

6. 平均介護度及び平均利用回数(期間平均)

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数
平成27年度	1.35	6.2 回	3.05	18.9 回
平成28年度	1.33	6.6 回	2.73	16.5 回

8. 事業報告(総括)

安心して住み慣れた地域で生活が継続できるよう支援します。	
取組事項	① 遠方に暮らす家族宛にサービスの紹介を行います。
実績	① 住み慣れた自宅での生活を継続するための提案として、介護保険サービスと介護保険外サービスを併用して利用されているご利用者の事例を紹介したことでサービス利用に繋がった。
課題と今後の取組	・同事業所に居宅介護支援事業所がある強みを活かし、サービスの組み合わせにより、効率良くサービスが利用できるよう、定期的に情報交換の場を設ける。

専門的な知識を習得し質の高いサービスを提供するため自己研鑽に励みます。	
取組事項	① 認知症サポーターを目指し、研修に参加します。 ② 個々の研修計画を基に積極的に外部研修に参加し、事業所内研修で復命します。
実績	① 認知症サポーター研修に参加し、35人の職員が認知症サポーターの資格を取得することができた。 ② 個々の研修計画を基に外部研修に参加した。 復命会については上半期、下半期で計3名の職員に行ってもらい、情報の共有を図ることができた。
課題と今後の取組	・認知症サポーターとして地域住民やご家族に向けた、認知症教室を開催する。 ・個々の研修目標計画一覧を基に、全職員が研修に参加できるよう取り組み復命会についても継続して行います。

統一されたサービスを継続して提供できるよう取り組みます。	
取組事項	① 学校行事、地域行事に参加し、地域の方々とコミュニケーションを図る。 ② 手順書など各書類の見直しを行う。
実績	① 阿賀黎明中学・高等学校で介護体験教室を開催し、多くの生徒や地域の方に参加していただき、福祉について情報発信また介護技術体験をしていただいた。 ② 月間スケジュールを立て書類の整備を行った。
課題と今後の取組	・今後も継続して外部に出向き情報の発信を行う。 ・書類の整備、見直しを継続して行う。

## 2 軽度生活支援事業

### 1. 月別利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	7	7	8	7	8	8	9	9	8	9	10	9	99人
延べ利用回数	26	30	35	35	30	31	29	30	33	30	37	38	384回

## 3 閉じこもり予防ケア訪問事業

### 1. 月別利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	1	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2	9人
延べ利用回数	5	5	8	0	0	0	0	0	0	4	2	7	31回

## 4 高齢者生活調査事業

### 1. 月別調査件数

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	127	127件

※阿賀町よりH29. 2月受託

## 5 障害福祉サービス事業

### 1. 月別利用状況

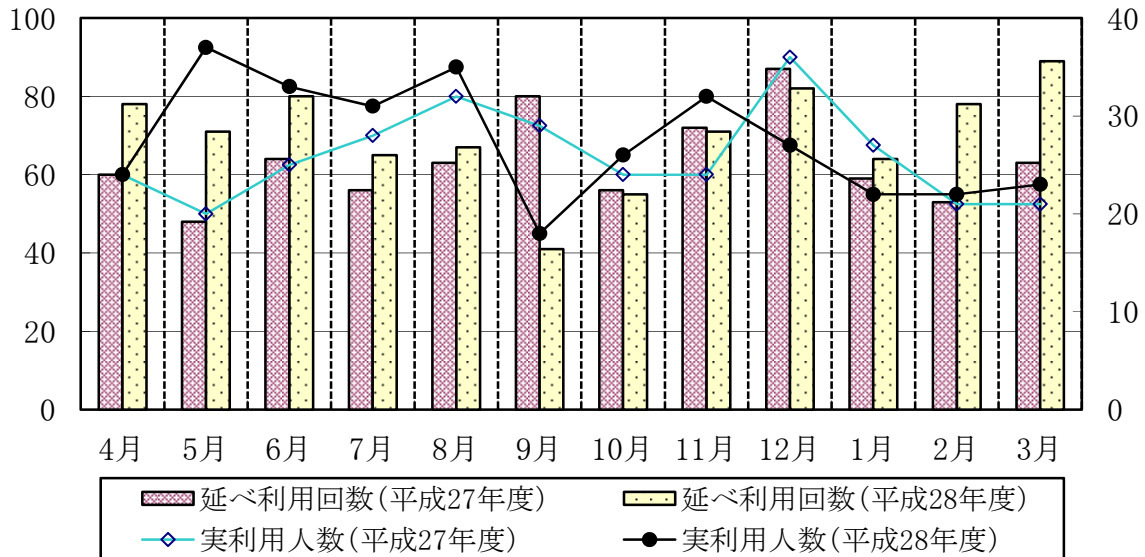
月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	15	16	16	15	16	15	15	15	15	15	15	15	183人
延べ利用回数	314	388	353	315	303	292	302	264	276	263	260	268	3,598回

## 6 まごの手サービス（介護保険外事業）

### 1. まごの手サービス 事業利用状況

(延べ利用回数)

(実利用人数)



月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数 (平成27年度)	24	20	25	28	32	29	24	24	36	27	21	24	314人
実利用人数 (平成28年度)	24	37	33	31	35	18	26	32	27	22	22	23	330人
延べ利用回数 (平成27年度)	60	48	64	56	63	80	56	72	87	59	53	51	749回
延べ利用回数 (平成28年度)	78	71	80	65	67	41	55	71	82	64	78	89	841回

### 2. 「見守り確認」安心サービス利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数 (平成28年度)	7	6	9	11	10	10	11	9	7	8	9	10	107人
延べ利用回数 (平成28年度)	392	382	426	535	502	454	611	473	395	382	403	470	5,425回

### 3. 事業報告(総括)

介護保険では対応できない部分の支援を利用者のニーズに応じて提供できるよう取り組みます。	
取組事項	①まごの手サービスについてのアンケートを行い認知度、満足度の調査を行う。
実績	①アンケート配布129件中76件が見守り確認安心サービスを知らないという回答があった。紹介に力を入れ広報活動をしたことで、新規利用に繋げることができた。
課題と今後の取組	・季節ごとのチラシを作成するなど、広報活動を工夫することでまごの手サービスの認知度をあげます。

速やかにサービス利用に繋げることができるよう取り組みます。	
取組事項	①全職員を対象にまごの手サービスについての勉強会を行う。
実績	①1月の職員研修にて介護保険事業と介護保険外事業の違い、まごの手サービスと見守り確認安心サービスの目的、内容について勉強会を行った。
課題と今後の取組	・日々の訪問時の会話の中からニーズを汲み取り、速やかにサービス提供に繋がります。

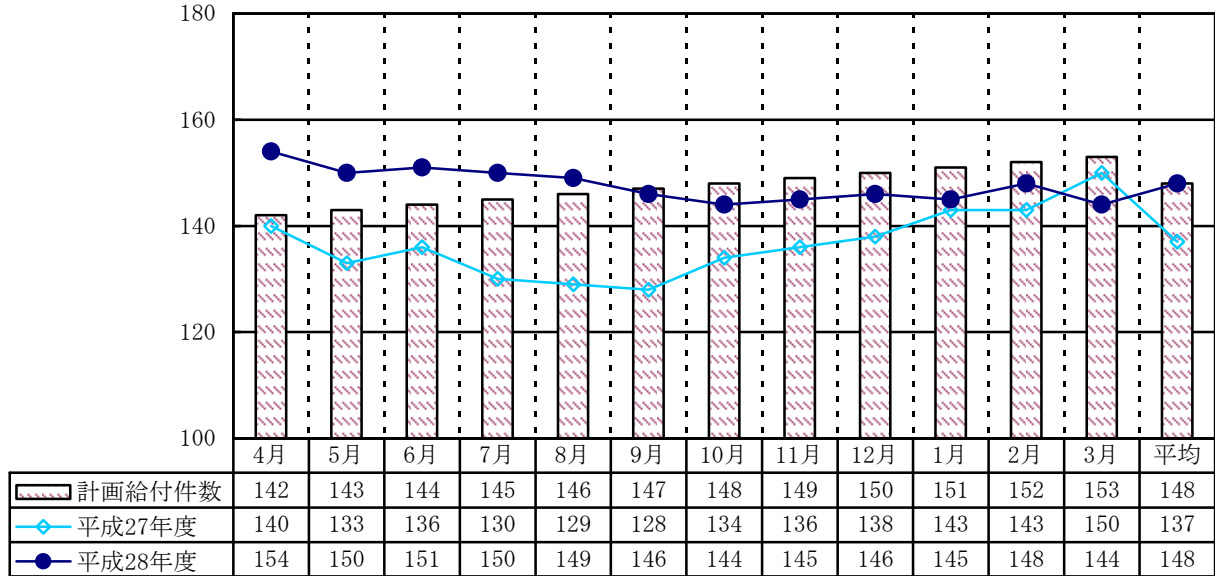
積極的に広報活動を行い、まごの手サービスと見守り確認安心サービスを広く知っていただけるよう取り組みます。	
取組事項	①1日に数回の巡回訪問を行い安否確認を行います。 ②必要に応じてご家族、ケアマネジャー、医療機関等に連絡します。
実績	①自宅で安心して過ごせるように、1日2回から3回の訪問を実施した。 ②必要に応じて、ご家族、ケアマネジャーと密に連絡を行い、情報の共有を行った。
課題と今後の取組	・介護保険と併用して、見守りサービスの利用方法をご家族、ケアマネジャーへ周知します。

## 7 居宅介護支援事業

### 1. 要介護者給付管理状況

〈給付管理件数〉

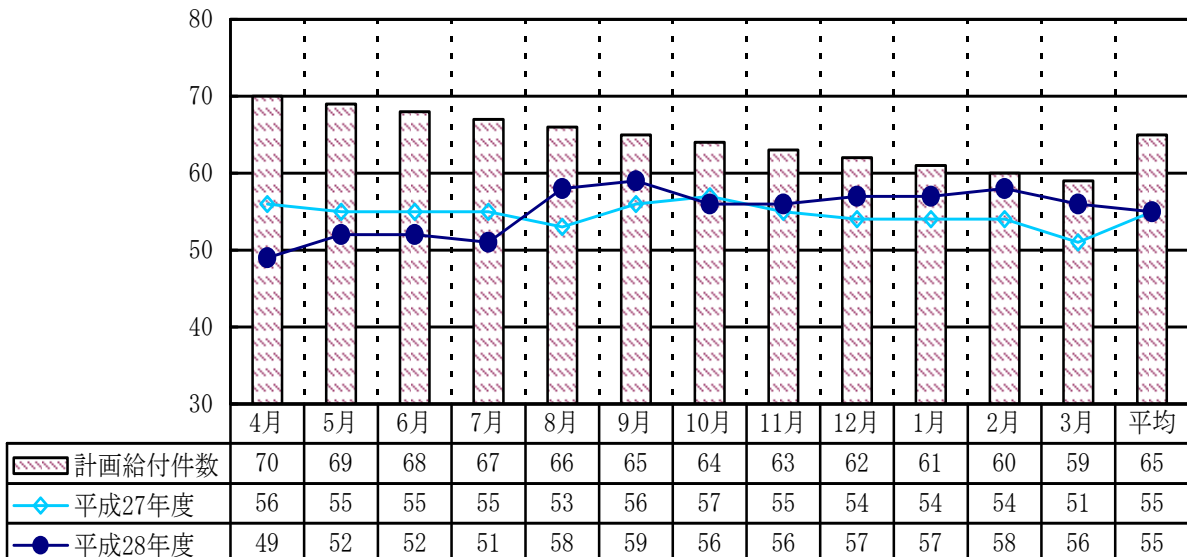
(単位：件数)



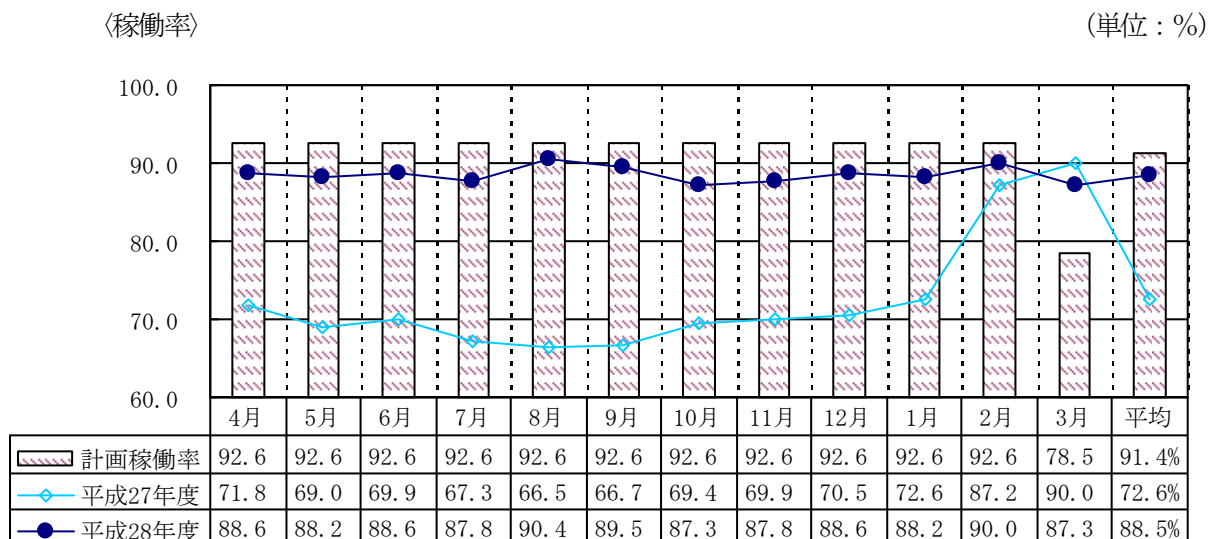
### 2. 介護予防給付管理状況

〈給付管理件数〉

(単位：件数)



### 3. 介護保険担当者状況



#### ※稼働率について

介護給付管理を行える上限(介護支援専門員数×39人)対して、給付管理をした人数がどれくらいの割合かを表します。

うち、介護予防については、1件あたり0.5人とします。

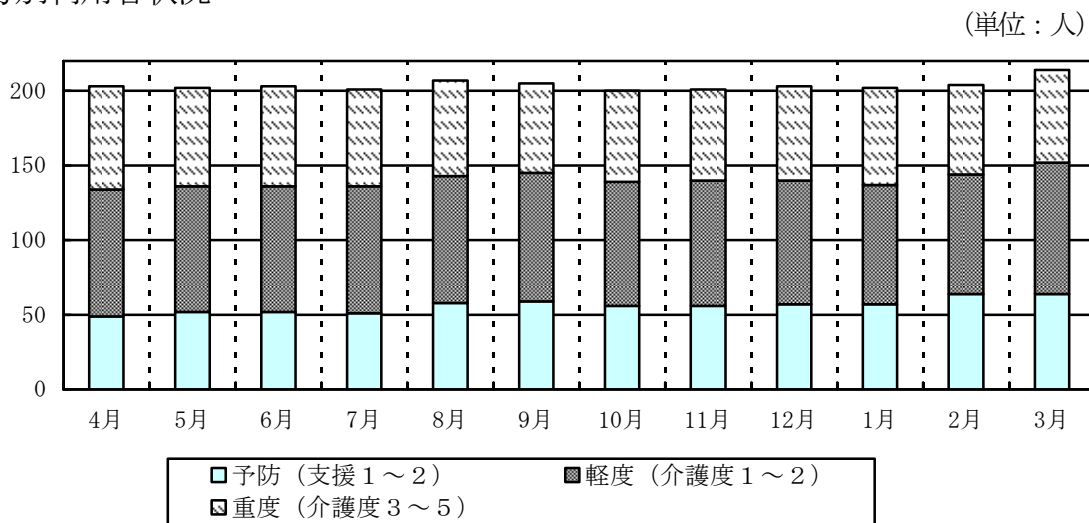
平成28年4月～平成29年2月まで

$(\text{介護給付件数} + (\text{予防給付管理件数} \div 2)) \div (\text{介護支援専門員} 5 \text{名} \times 39 \text{人}) = \text{稼働率}$

平成29年3月

$(\text{介護給付件数} + (\text{予防給付管理件数} \div 2)) \div (\text{介護支援専門員} 6 \text{名} \times 39 \text{人}) = \text{稼働率}$

### 4. 区分別利用者状況





5. 事業報告(総括)

自宅での生活を支えていくため、地域へ出向き情報交換の機会を持ちます。	
取組事項	<p>①相談センターなごみと共に地域へ出向き、介護保険制度、介護支援専門員の役割や法人内サービスの紹介を行い、必要な時にスムーズにサービス利用が開始できるよう、情報提供を行います。</p> <p>②支援者となり得る地域の方と連携し、協同で利用者を支援します。</p>
実績	<p>①以前まとめた「事業所の特性」について、内容の見直しを行った。サロンや利用者への説明の際に活用することで、サービスの内容や利用料金についても分かりやすく説明できた。法人職員が利用者や家族から相談を受けたときに役立てられるよう、介護サービス利用までの流れを説明した。利用者及び家族の意向を把握するため、「満足度アンケート」を実施した。アンケート結果を分析し、課題を改善するための検討を行った。</p> <p>②一部地域ではあるが、地区の民生委員や区長との連絡をとり、利用者が困っているときに協力を得ることができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン開催が、当初の計画より少なく参加機会が持てなかった。今後も地域貢献活動を通じて、地域へ出向き情報を発信していく。</li> <li>・地域包括支援センターを通じて、民生委員や区長との関わりを深めていく。</li> </ul>

事業所全体で利用者をサポートできる体制を作ります。	
取組事項	<p>①週1回のミーティング等でご利用者の情報交換、支援方法について検討します。</p> <p>②支援困難ケースについては、定期的に事例検討会を開催し、支援方法を検討し共有することで、事業所全体で支援します。</p>
実績	<p>①毎週ミーティングを行い、情報共有を図った。困っているケースについては、その都度話し合い支援方法を検討した。</p> <p>②事業所内で検討し、必要時、地域包括支援センターや保健師に協力を求め支援を行った。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の事業所や地域包括支援センターとの情報交換の機会を持ち、支援方法を一緒に検討していく。</li> </ul>

総合事業への理解を深めスムーズに移行できる体制を作ります。	
取組事項	①制度に関する研修への参加や情報収集を行います。
実績	①地域包括支援センターの研修及び外部研修に参加し、情報収集を行うほか、事業所内でも情報収集を図った。
課題と今後の取組	・平成29年度より始まる総合事業に関する情報が不足しており、混乱があった。今後開催される地域包括支援センターの研修に参加し理解を深めていく。

## 8 とうかん福祉サービス 研修報告

### 1. 外部研修種別の内訳

項 目	内 容	主 な 研 修
技 術 向 上 人 材 育 成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	第1回管理者研修
		サービス提供責任者の業務役割の理解
		H28現任ホームヘルパー研修
		H28社会福祉施設経営実務解説セミナー
		ひやりはとからリスクマネジメントを考えよう
		ディズニーから学ぶホスピタリティー
		人材育成セミナー
		在宅ケア関係者のための神経難病セミナー
		介護現場の接遇マナー研修
		成年後見制度に関する研修会
		訪問介護計画書展開研修
		衛生管理者研修
		認知症ケア普及講座
		認知症サポーター研修
		死ぬまで生きる看取り実践セミナー
		日本ケアマネジメント学会in新潟大会
		障がい者研修
利用者から学ぶ研修会		
介護支援専門員実務者研修		

## 2. 内部研修参加状況

開催日	研修名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
平成28年 4月28日 4月29日	漏れないオムツの当て方と移乗方法研修会(支所研修)	38	24	63.2
平成28年 5月18日	法令遵守、個人情報保護、	48	39	81.3
平成28年 5月23日 6月27日	QC手法を用いての事故報告書の書き方(支所研修)	38	33	86.8
平成28年 7月13日 7月14日	救急法、認知症研修	43	35	81.4
平成28年 8月5日 8月6日	接遇について(支所研修)	48	44	91.7
平成28年 10月11日 10月12日 10月18日 10月19日	調理実習(冬野菜を使って)	39	34	87.2
平成28年 11月18日	感染症、吐物処理研修	46	36	78.3
平成28年 11月4日	認知症研修、上半期研修復命会	47	29	61.7
平成28年 12月14日	交通安全講話	47	35	74.5
平成29年 1月10日	防災について	43	37	86.0
平成28年 2月23日	下半期研修復命会	47	38	80.9

## 3. 研修報告(総括)

### ①外部研修

- ・外部研修受講者からの復命を受けることで、新しい情報や技術を身につけサービスの向上につなげることができた。

### ②内部研修

- ・内部研修では年間計画を作成し、定期的に研修を行うことで個々のスキルアップにつなげることができた。

## 9 とうかん福祉サービス 災害対策

### 1. 備蓄品の配布

- ・災害時に供え各支所に備蓄品としてヘルメット・ソーラーランタン・軍手・キャップライト・ポリタンク・防寒シート・救急箱・消火器の点検を行い、設置場所の再確認を実施し、再度職員に周知徹底した。

### 2. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
11月28日	緊急伝達訓練 夜間に緊急連絡網を使用し、職員への伝達訓練を行った。	55名

## 10 とうかん福祉サービス 苦情受付・対応報告

### 苦 情

#### <居宅>

##### 1. 利用者家族より

みかわ園に利用者家族から電話があり、「担当ケアマネとあまり会う事もない。話を聞いてくれないのでケアマネを変えたいがどうしたらいいか。」と相談があった。

・ご利用者、ご家族に直接話を伺い、謝罪を行うとともにケアマネを変更することとした。ご利用者との連絡を密にし、できるだけ会って話をする。ご利用者及びご家族の話を傾聴し気持ちに寄り添った支援が基本のため説明の際はご利用者が分かりやすいように工夫しサービス事業者側本位の偏った対応にならないよう注意することを再確認した。

<要因:サービスの質>

#### <訪問>

##### 2. 利用者より

「塩辛を作りたくてイカを2〜3杯買ってくるよう頼んだら、1杯280円で高かったからと言って1杯しか買ってこなかった。あなた方の買い物じゃなくて私の買い物を頼んでいるんです。明日も同じヘルパーが来るならキャンセルしてほしい。ヘルパーの上の方々の教育がなっていないからこういうことが起きるのではないか。」と電話があった。

・電話にて謝罪を行った。訪問した職員と一緒になぜこのようなことが起きたのか、状況の確認と検討を行った。買い物へ行く前、必ず物や個数について確認し想定される事項についても確認をすること。確認不足によって買い物先で悩むことがあった場合は、事務所に連絡し、事務所からご利用者に確認してもらうなど個々に合わせた確認方法を取ることを確認を行い、他職員へも周知をおこなった。

<要因:サービスの質>

#### <訪問>

##### 3. ご家族より

高齢者夫婦とその親戚（ご利用者）の3人暮らしのお宅。

訪問時トイレでご利用者が排便に失敗し、汚れた衣類を発見した。浴室で下洗いし、不在だった主介護者（高齢者夫婦の妻）に伝えるために居間のテーブルにメモを残してきたが、メモを居間のテーブルにあげてきたことで、主介護者に情報が伝わる前に介護者の夫の目に触れることとなった。ご利用者は、介護者の夫に排便の失敗を知られてしまったこと、ヘルパーが何も言わずに処理したことで利用者は情緒不安定となってしまう、主介護者より「男の人に排便についての失敗を知られてしまったことで本人のプライドを傷つけてしまった。もう少し、配慮、気遣いをしてほしかった。」と電話があった。

- ・電話で介護者へ謝罪を行い、翌日の訪問時にご本人へ配慮に欠けてしまったことの謝罪を行った。  
 家族の状況や環境等に応じた、対応をすることが求められる。判断に困った時には、事務所へ連絡し判断を仰ぐこととする。 <要因:サービスの質>

<訪問>

4. ご家族より

「ズボン下より前の方がもこもこしており、確認するとオムツ内のパットが前の方に来ている。後ろの方もパットが折れ、床ずれの部分にあたっていた。オムツ交換は基本的なことなのに、きちんとできていないことがわかりしてしまった。床ずれがあり、心配しているのに基本的なことができていないのは、ハートがないとしか言いようがない。」と翌日の訪問時、ご家族よりお話をいただいた。

- ・その場で謝罪を行った。ご家族の言われるとおりオムツ交換、パット交換は基本的なことである。ベッド上でパットの交換を行うときは、ご利用者の体の位置が定位置にきたところで、再度パットの当たり具合を確認するということの再確認をし、徹底することの周知を行った。 <要因:サービスの質>

苦情の発生件数

事業	件数
訪問介護	3件
居宅支援	1件
合計	4件

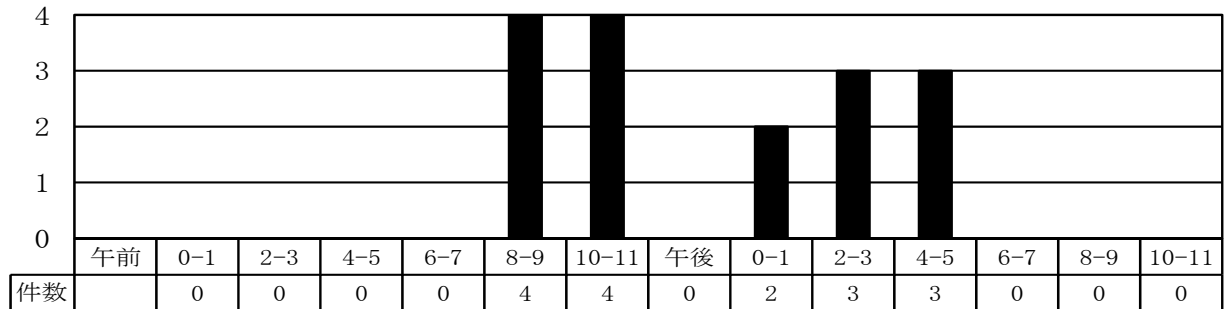
苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0件
職員の態度	0件
サービスの質	4件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合計	4件

## 11 とうかん福祉サービス 事故等発生状況報告

### 1. 時間帯別発生件数

(単位：件数)



〈発生件数合計 16 件〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
路上	7 件
台所	2 件
トイレ	2 件
その他	5 件
合計	16 件

### 3. 内容別発生件数

事故内容	件数
車輛事故	7 件
転倒・転落	1 件
物品の破損	4 件
その他	4 件
合計	16 件

### 4. 事故報告(総括)

- ・ 車輛事故が7件の内訳として、確認不足による自損事故が4件、居眠りによる自損事故が1件、相手の確認不足による接触事故が1件、その他1件となっている。事故発生時には、運転者も含め数名で事故検討書を用いた事故原因の追究と具体的な改善策を話し合い、個々に安全運転への指導を行った。また、12月の職員研修には警察署課長より交通安全講話をしていただき全職員で安全運転について再確認を行った。
- ・ 車輛事故以外の事故等についても、事故検討書を用いた検討を同様に言い、支所検討会で全職員に周知し再発防止に努めている。